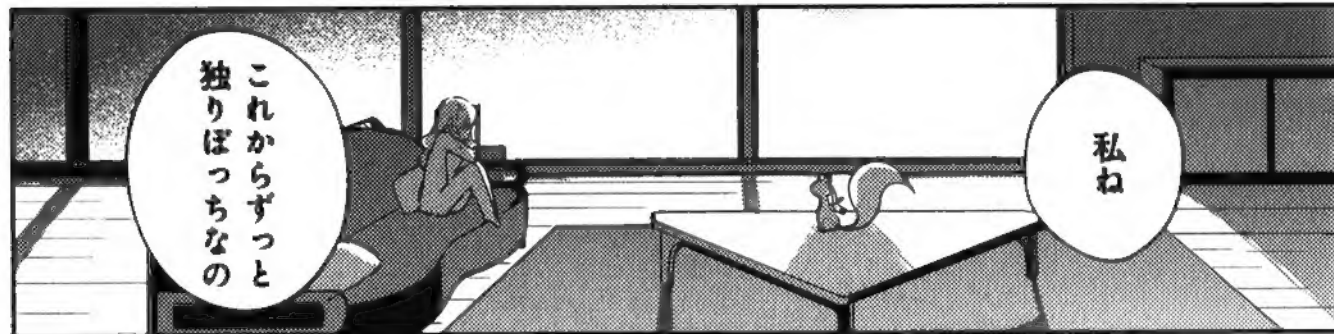
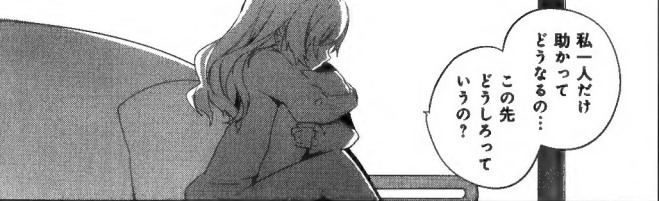
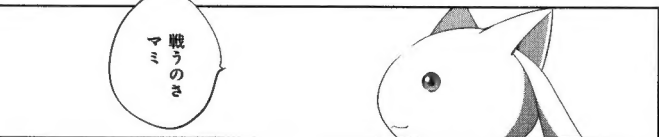
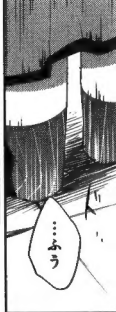
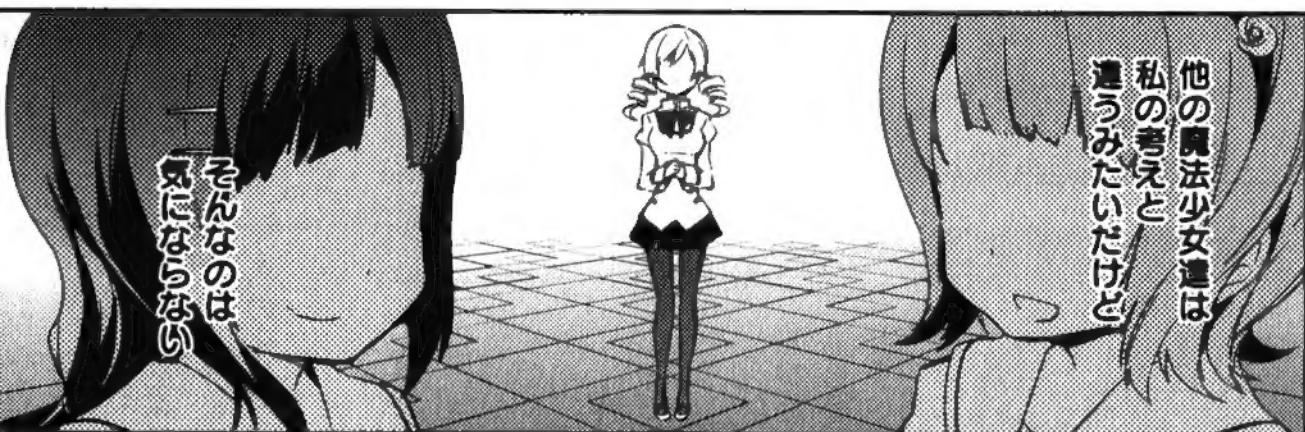
もしもたった一つの願い事をやりなおせるとしたら

迷わず家族の命を繋ぎ止めたいと
そう祈っただろう

魔法少女まどか☆マギカ ~The different story~

PUELLA MAGI MADOKA MAGICA

私一人だけ
助かって
どうなるの…
この先
どうしろって
いうの？
戦うのさ
マミ
……戦う？
そうさ
君の力が
必要なんだ
契約により
君の命は
繋ぎとめられた
これからは
魔法少女として
魔女と戦う使命を
背負うんだ

…ふう

キュゥべえとの
契約によって
手に入れた魔法

私はこの力で
一人でも多くの
命を救うと決めた

きっとこれは
私の使命なんだ

私…頑張るね
魔法の力で両親が戻ってくるわけではないけれど
誰かを救うたびに少しずつ自分の心も救われていく気がした

…あの子
突然弟子入り
したいだなんて
言うんだもん

びっくり
だよね

魔法少女の友達が
できるなんて
すごく嬉しい

私大丈夫だよ
お父さん
お母さん

もう一人じゃ
ないから
怖くないし
寂しくないよ

これからは
仲間と一緒に
この街を守って…

あたしは
風見野に
戻る

他人を見捨てた
こんなあたしでも…

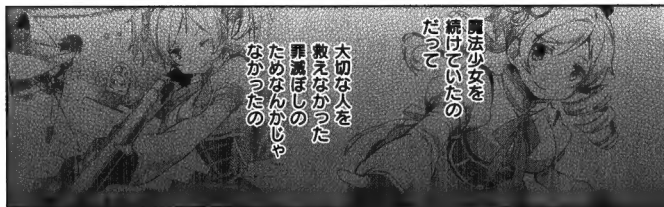
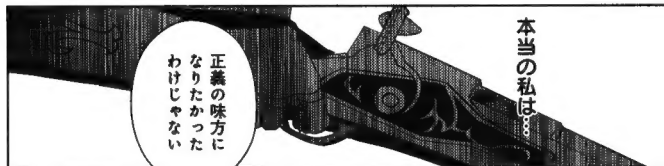
一緒に
組めるって
いうなら

あたし…

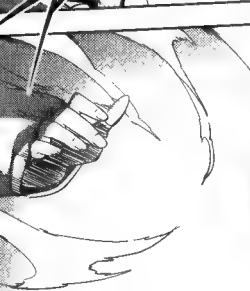
マミさんのこと
幻滅するかも

違うの…

全然大丈夫じゃないの…

強くないのに
完璧ぶって
いつだって私は
嘘ばっかり

…そっか

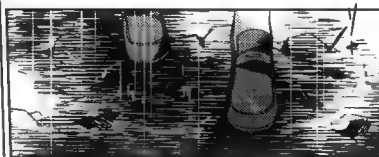
これで…
良かったんだ

意固地になって
強がる必要
なかったんだ
さあ
帰りましょう
鹿目さんが
待ってるわ
ありがとう
マミさん
美樹さんは
こんな私でも
受け入れて
くれるんだ
この子達となら
ずっと一緒に…
…でもね

ごめん……

ごめんね　美樹さん

本当に…

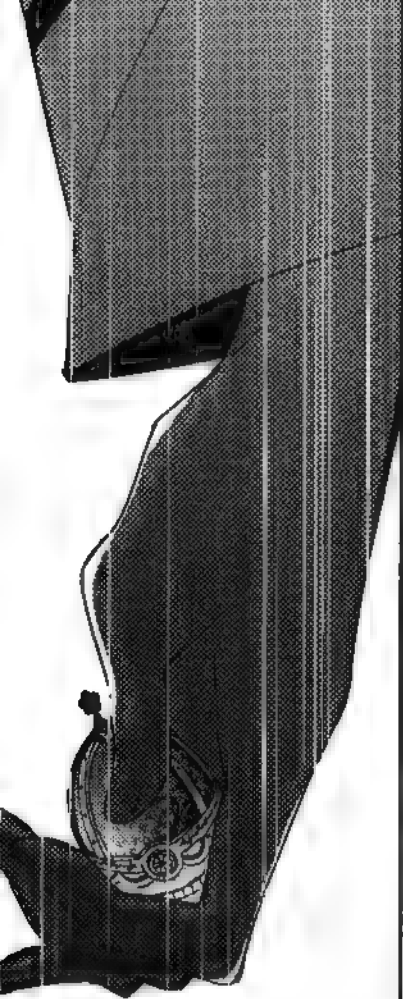
正義の味方じゃ
なくなっちゃった

マミさん…？

…鹿目さん
さやかちゃん見つかりませんでしたか…？

……？
なにか…あったんですか？
…美樹さんに会ったわ

え…
さっきまで話をしていたの
入れ違いになっちゃったみたいね

美樹さんもう大丈夫みたいよ
心配いらないって

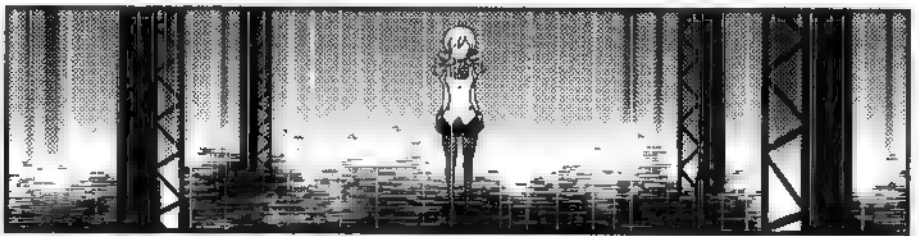
雨に降られちゃったから一度身支度整えたあとで
魔女退治に合流することになったの
そうだったんですかよかった…
じゃあわたしも一緒に…
そのことなんだけど…
今日は美樹さんと私二人だけでもいいかしら？
その、美樹さんがね
鹿目さんと話し辛そうにしてたみたいだったから…
あ……

あのマミさん

私が守るって
約束したのに…

冗談だろ
そんな話…

いいえ

紛れもない
事実よ

魔法少女が
魔力を使い果たし
ソウルジェム…
つまり契約者の魂で
作られる宝石の穢れが
限界を超えると
グリーフシード
に変化して
魔女となる…

それが私達
魔法少女の
末路なの

…コイツの
言ってることは
本当か？
訂正するほど
間違いでは
ないね

あいつは…
さやかは本当に
魔女になったのか
……
ああ
間違いないよ
美樹さやかの
ソウルジェムは
完全に濁り
魔女となった
暁美ほむら
君がその情報をどこで
手に入れたのかは…
聞かないで
おくよ
いずれにしたって
君達の末路が
変わるわけでは
ないからね
魔法少女はみな
魔女になる
運命なんだから
言ったはずよね？
あの子達の所には
行かない方が
いいって

彼女は魔法少女の真実に耐えられるほど強くない

今頃真実に絶望して自害か…

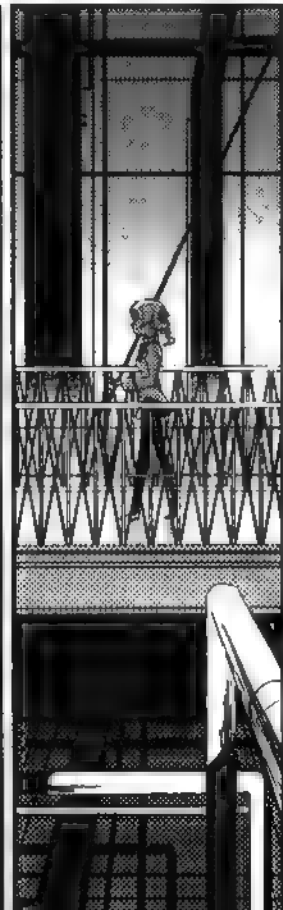
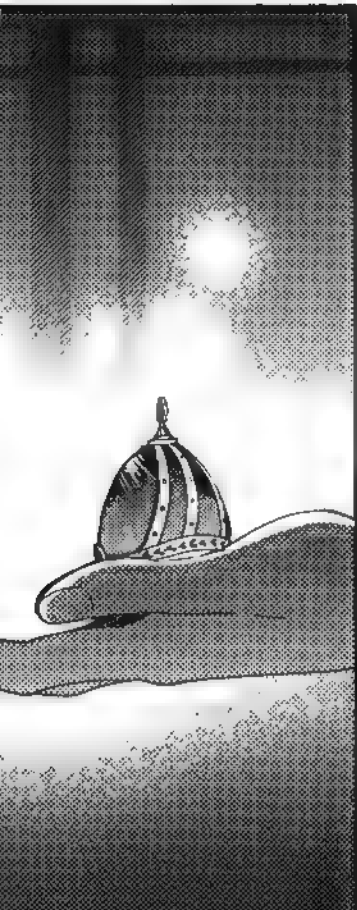
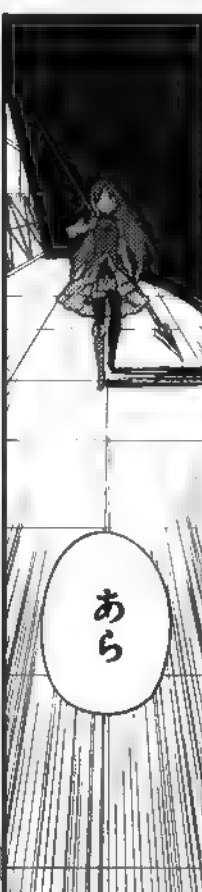
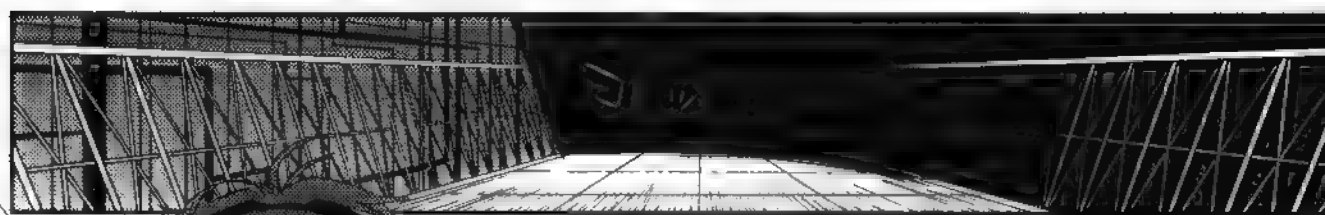
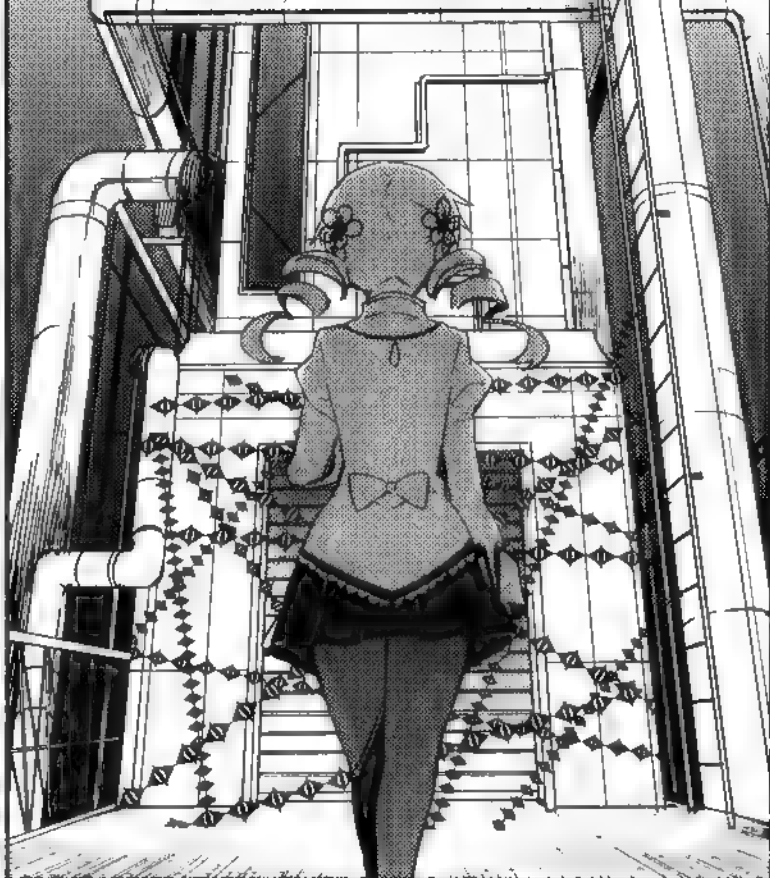
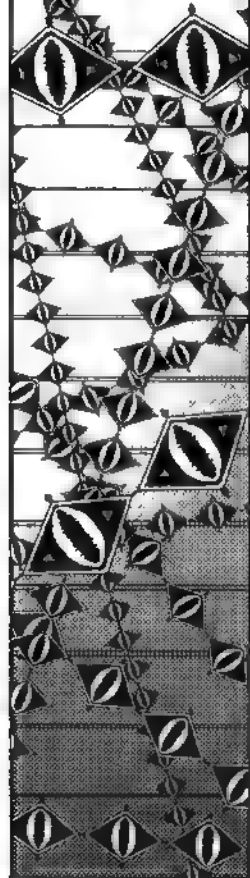
ちょっと待てよ なんでマミが

美樹さやかと心中を図るつもりかもしれないわ

あるいは既に魔女の可能性だって…
…待てって言ってんだろうが
アンタが魔法少女の事情に通じてようがどうだっていいけどよ
ろくにアイツを知らないくせに適当なこと言いやがって…
アイツが自分で命を絶っちまうような弱いヤツなわけねえんだよ！
なんでアイツの事までそうやって言い切れるんだよ…
あたしの知ってる巴マミってヤツは…
なにも知らないからそんなことが言えるのよ

…離して
無駄な争いごとはしたくない
ガッ…
巴マミの事を解っていないのはあなたの方よ
上辺だけの彼女しか見ていないあなたに反論される筋合いはないわ
はぁ!? てめぇ…
冗談のつもりで忠告しているわけじゃないの
今の彼女に会えばあなたの命が危険にさらされるのは事実よ
本当の巴マミはそういう子なの
…アンタ一体何なんだ? まるでアイツと組んだ事あるような口ぶりじゃないか
そうかもね
ふん… マミの口からアンタの話題なんか出たことないよ?

私と一緒に
戦った頃の
記憶なんて
今の巴マミには
ないわ
…なんだそりゃ
!
…どういう
つもり?
ついて
くんなって
事さ
元々あたしは
アンタらのこと
信用しちゃ
いないんでね
アイツらの身に
何が起きてるか…
自分の目で
確かめなけりゃ
気が済まないのさ

あなたに死なれると困るのだけど
だからって野放しにもしちゃおけないだろ
もしもアンタ達の言うとおり…
さやかが本当に魔女になっちまったのなら
元に戻す方法を見つけ出す
本当にマミが妙な事考えてやがったら…殴ってでも説得する
両方ともうまくやってアイツら仲間にしちまえばさ
ワルプルギスの夜に立ち向かうための十分な頭数稼げるってもんだろ?
アンタにとっても悪い話じゃないはずさ
……好きにすればいい

ただし
無茶だけは
やめて

あなたにとって
本当に守るべき
ものが何なのか…

見誤っては
駄目よ

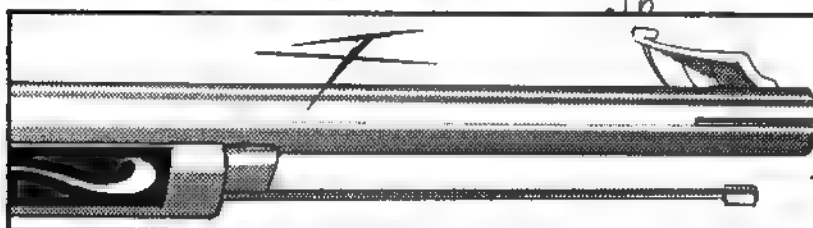
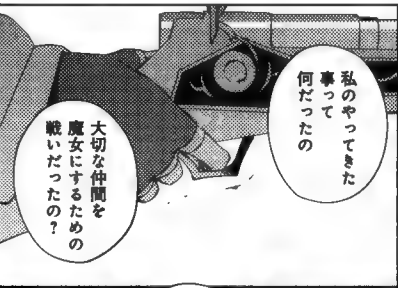
あら

こんばんは佐倉さん

よぉ

…いいえ

そこの魔女と一緒に
私も死ぬんだから

はあ？
アンタ頭でも打っちまったのかよ？
そんなヤツさやかの所には行かせられないね
………目的は最初からそれ？
誰に聞いたか知らないけれど…別にいいわ
そこをどいて
私には魔法少女を続ける理由がないの

笑っちゃうでしょう…

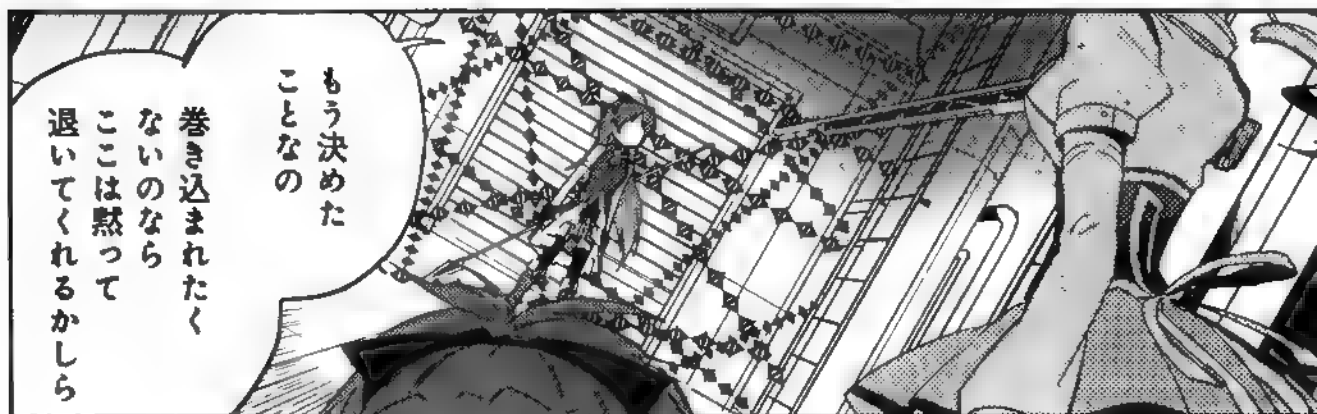
我が身の正義感やプライド惜しさに

あの子を見捨てた結果がこれなの…

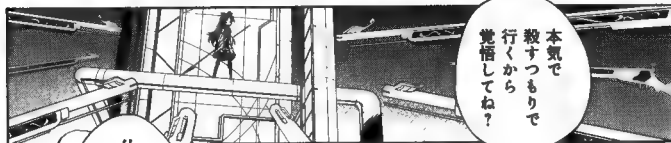
私のやってきた事って何だったの

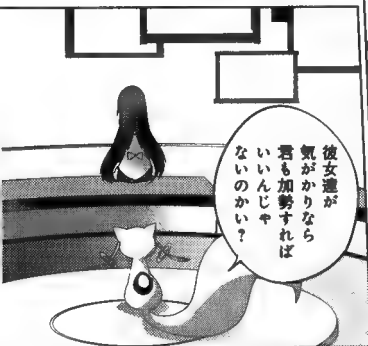
大切な仲間を魔女にするための戦いだったの？

どうせいつか自分も同じ運命を辿るなら…

今ここで
あの子と一緒に
死んだほうが
マシだって…
そう思っちゃう
じゃない？
もう決めた
ことなの
巻き込まれたく
ないのなら
ここは黙って
退いてくれるかしら
…佐倉さん
だって
勝手に
死にたがってる
人間なんか
命を張って助ける
義理ないでしょう？

もう二度と他人のために魔法は使わないって…
確かにそう言って縁を切ったんだものね？
今のあたしには…
…相変わらずいちいち細かいヤツ
だったらソイツはちょいとばかり撤回するよ
アンタをこのまま放っておくことなんか絶対にできやしないんだからさ！

…そう？
魔法少女同士の揉め事を一発で解決させる方法なんてさぁ
一つしかないんじゃない？
できないのならどうするのかしら？
…それもそうね

いいわ
お望み通り
力づくで
解決させてもらう

悪いけど
あの時みたいな
手加減は無しよ
本気で
殺すつもりで
行くから
覚悟してね？
佐倉さん？
…ふん
上等じゃ
ないのさ…
やれるもんなら
やってみなよ？
アンタの
覚悟ってヤツが
どの程度のもんか
確かめてやるからさ！

丁度いい
機会だ
手加減なしの
マミとあたし…
ホントに強いのは
どっちかって事を
ハッキリさせよう
じゃないか
さやかの所に
行きたけりゃ
あたしを
ぶっ倒して
いきな

あの子達は？
戦いを始めたようだね　お互い退く気配はなさそうだ
彼女達が気がかりなら君も加勢すればいいんじゃないのかい？
第10話
佐倉杏子は君の仲間なんだろう？

干渉はしない
あの子達が勝手に始めたことだもの
そもそも佐倉杏子が私の援護を歓迎するとは考え難いわ
…確かに杏子の場合はそうかもしれないけど
僕としては穏便に済ませたいところなんだよね
それとも君に何か手助けできない事情でもあるのかい？

…別に
ないわ

ただ私は
無益な戦いで
魔力を消耗
したくないだけ

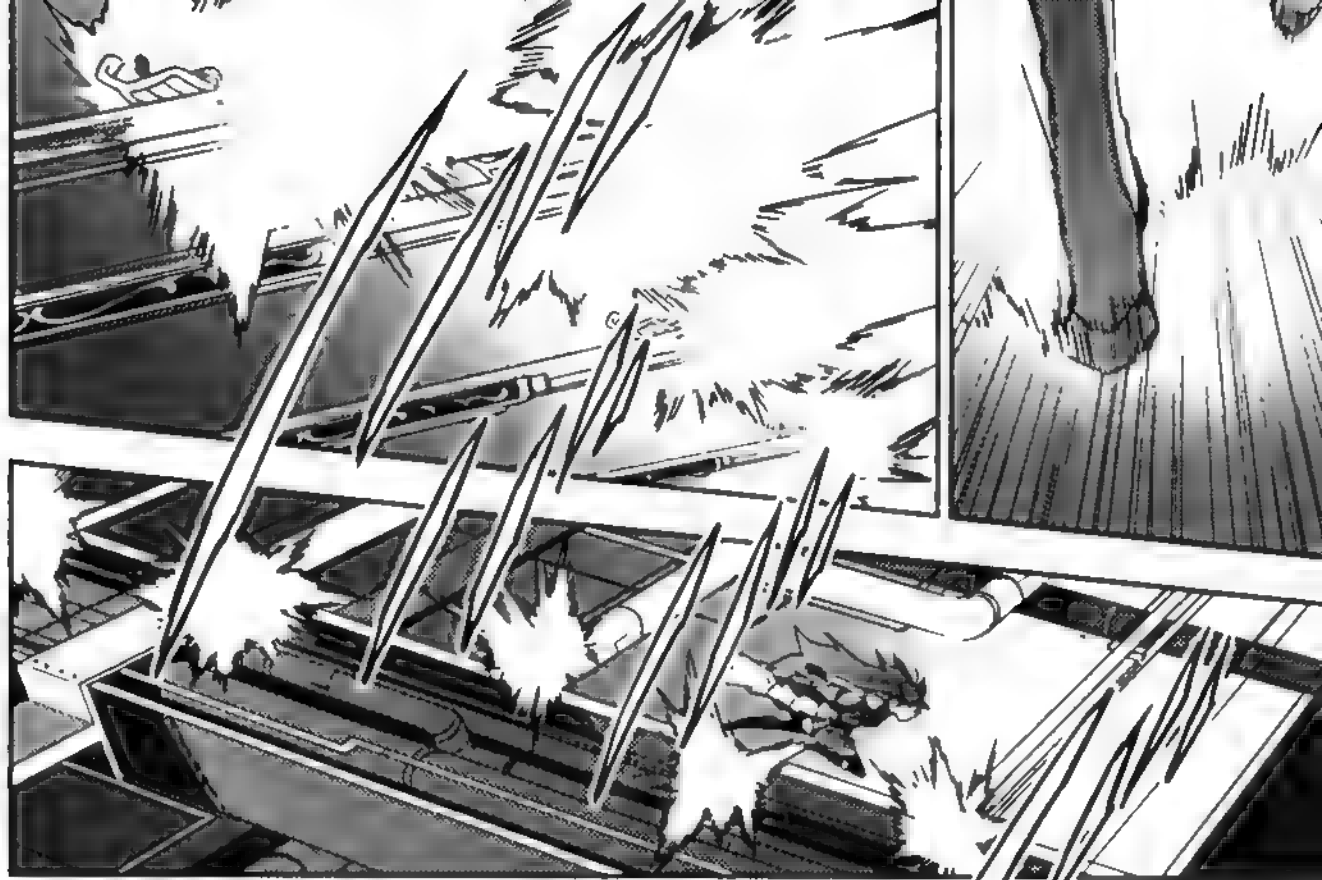
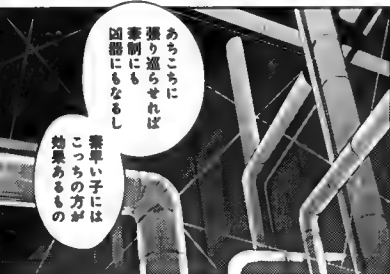
…いずれにせよ
私一人の魔法で
どうこうできる
ものじゃない

巴マミの元へ
向かわせて
しまった以上
今はあの子に
任せるしかない

ハン…
どこ
狙って…

マミの糸…？

下手に動き回らないほうが身のためよ

傷だらけになるのは嫌でしょう？

面白いモン
作れるように
なったじゃんか？
…ふーん
大したもの
じゃないわ
糸の硬度を
少し上げただけ
あちこちに
張り巡らせれば
牽制にも
凶器にもなるし
素早い子には
こっちの方が
効果あるもの
……
ただでさえ
手数で勝負の
アンタだろ
そういう魔力の
使い方ってさぁ…
ヤバイんじゃ
ねーの？

敵の心配なんて…
随分余裕ね？
バカ…
いい加減にしろよマミ！
自暴自棄になってやがるのか
アンタが一番解ってるはずだろ？
魔力が全部尽きちまったら
長引かせたらアイツが持たない
アンタだって…！

ガッ

勝負ありだね

そんな腕じゃ撃てやしないだろ

バカな考えはやめなよ

アンタらしくないよ

アイツを元に戻す方法だってあるかもしれないのに簡単に諦めちまっていいのかよ？

だいたいさやかが魔女になったのだって

アンタのせいじゃなくて…

…そうね

だったら全部
佐倉さんのせいね

あなたの悪い噂
知ってるって
言ってたでしょう？

周囲の被害を
顧みず必要以上に
グリーフシードを
集めてるって…

それってつまり
美樹さんの分の
グリーフシードも
あなたが奪ったような
ものじゃない

あなたが
戻ってきたから
大切な仲間がバラバラに
なっちゃったの

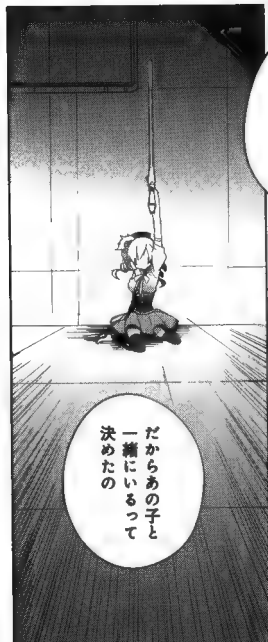
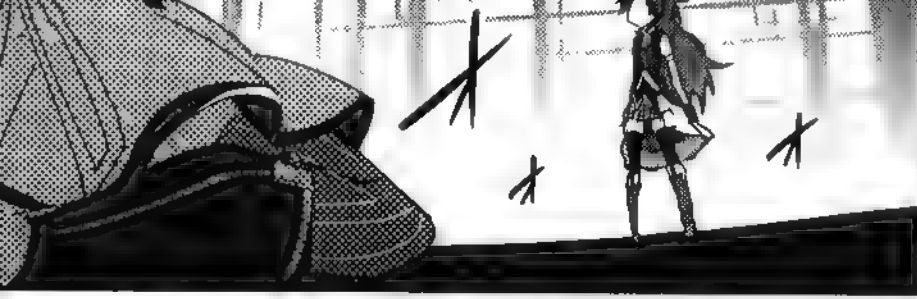
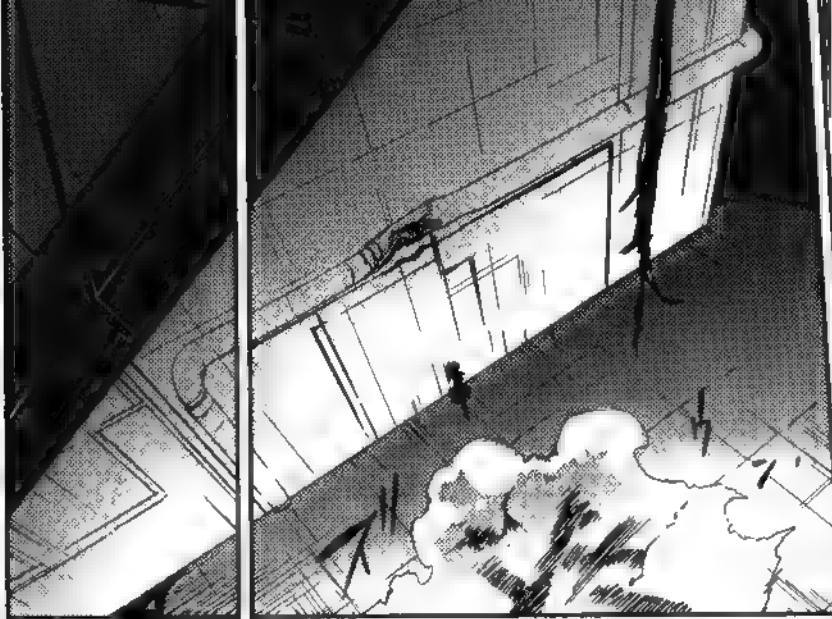
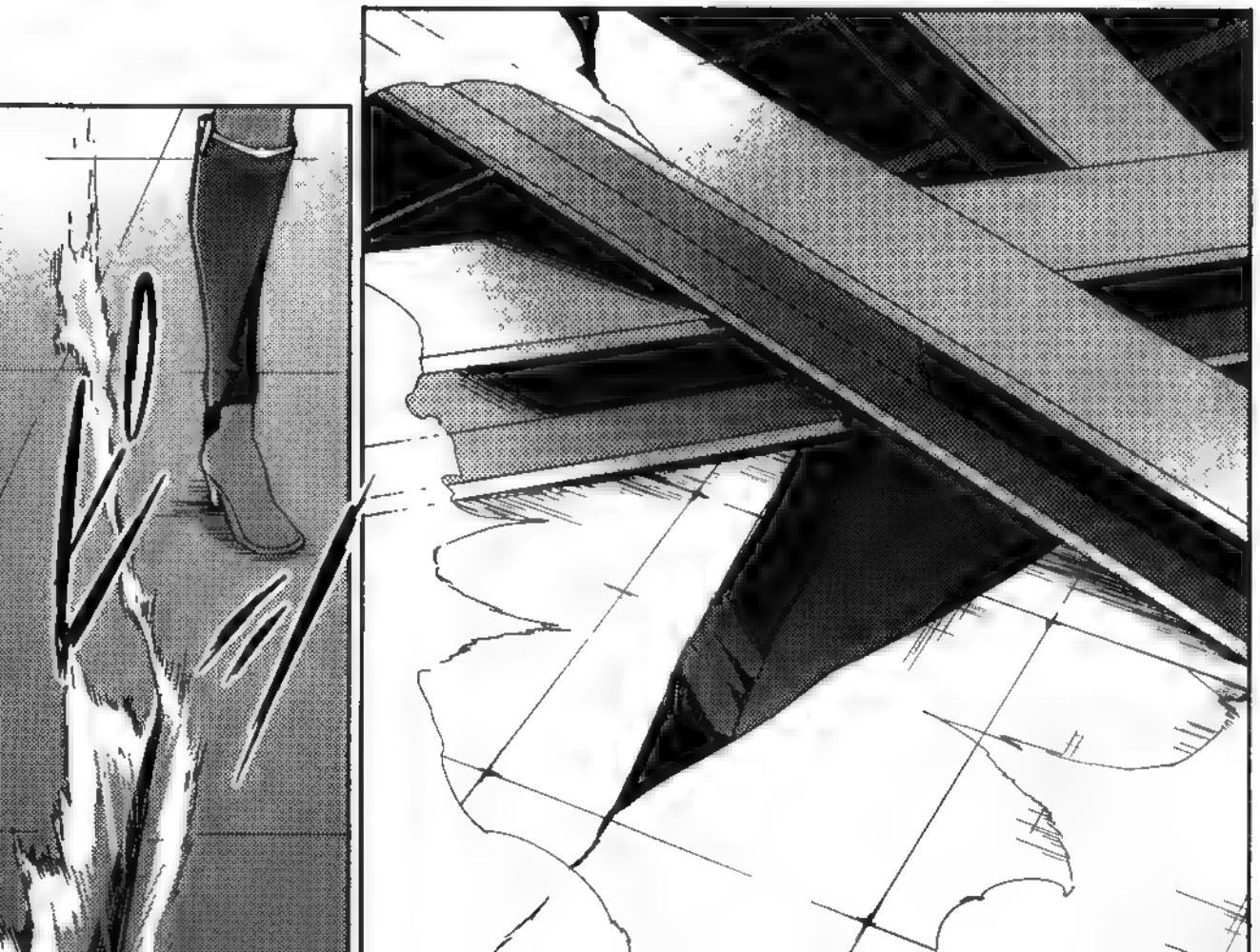
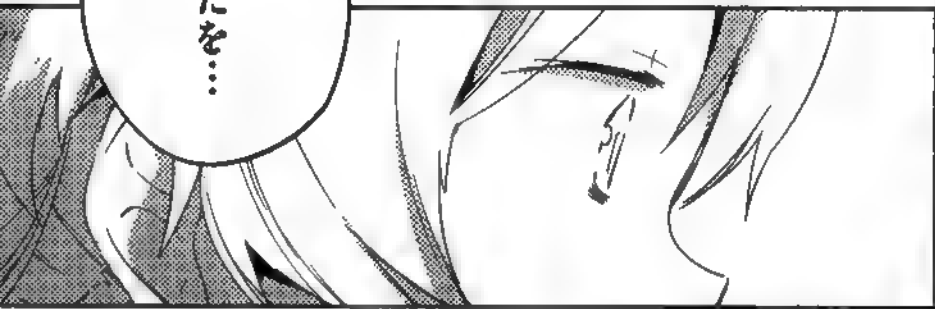
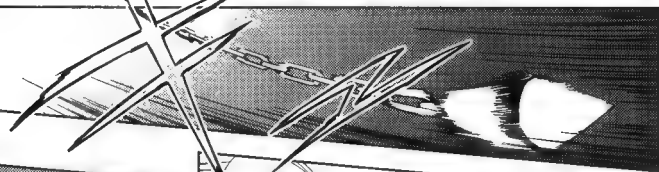
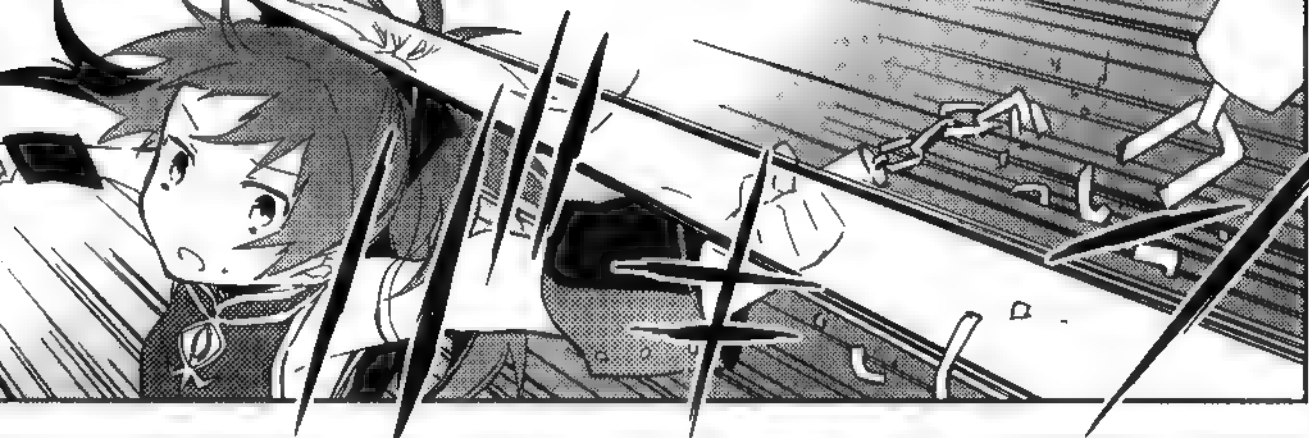
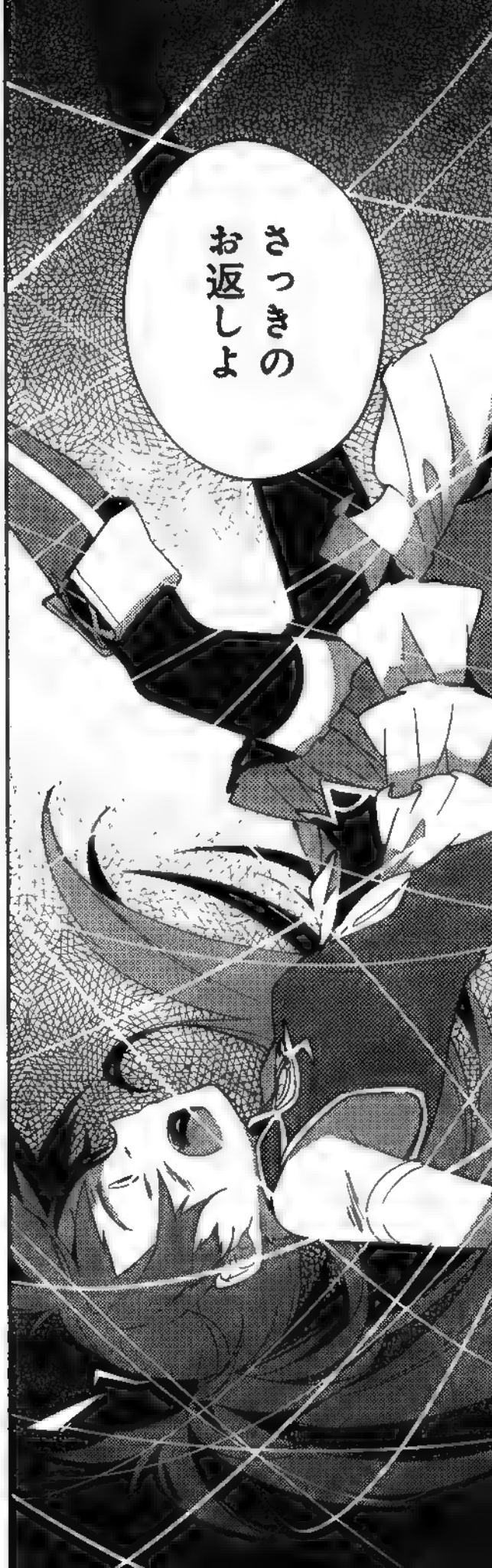
どうして私の
邪魔ばかり
したの

そんなに私が
楽しくしているのが
気に食わなかったの？

…アンタ
何言って…

…ほら
最低でしょ
こんな私

佐倉さんは強いわね
絶望にも負けず
生きてこられたんだから

私は
気持ちが弱いから
あなたの様には
なれそうもない

…でもね
こんな弱い私でも
美樹さんならきっと
受け入れてくれると
思うの

だからあの子と
一緒にいるって
決めたの

あなたになんか邪魔はさせないわ
――え

ごめんね
佐倉さん

手荒な真似なんか
したくなかったけど
これくらいでも
しなくちゃ

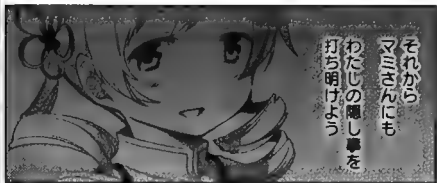
あなたを…

な・・・

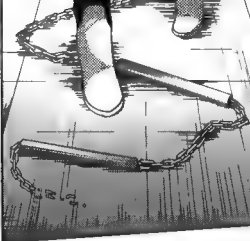
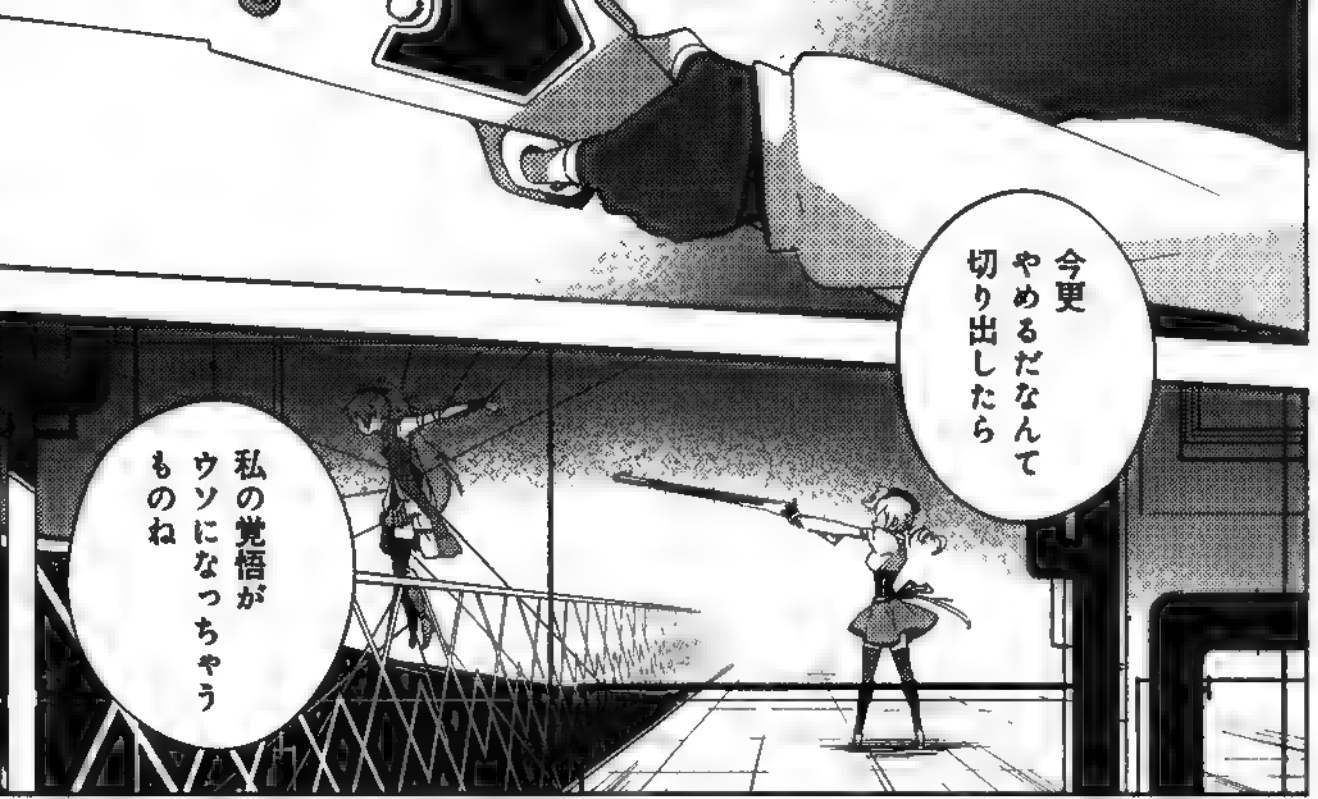
マジで
死ぬとこだった
じゃんかよ…

往生際
悪いんだよ！
怪我人らしく
観念しやがれ！
ハン…
もう逃がさな…
ガシャン

惜しかったわね

さっきの
お返しよ

それから…

杏子ちゃんが
マミさんと
仲直りできる
ように…

…それで？
どうすんの
とどめ刺すの？

今更
やめるだなんて
切り出したら

私の覚悟が
ウソになっちゃう
ものね

……………

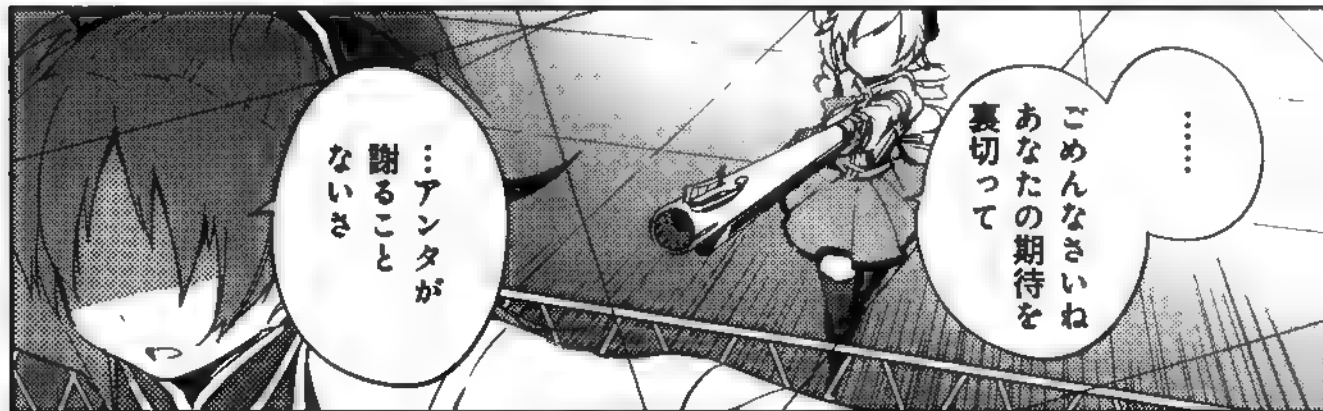
なんの話？

ココに来る前に
ほむらのヤローに
忠告されたのさ

ホントなんだ
アイツの
言ってたこと

アンタと会ったら
命が危ねえって

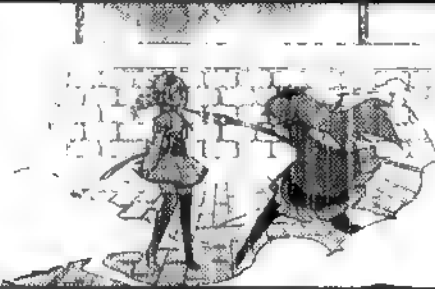
そんなバカなこと
あるはずないって
思ったよ

だからアンタを
ふっかけた

マミはそんなヤツ
じゃないって
信じながら戦ってた

だけど
流石にこんな
カッコでさ

あたしは
信じてるだとか
笑い話だよな…

……

ごめんなさいね
あなたの期待を
裏切って

…アンタが
謝ることと
ないさ

だって
先に裏切ったのは
あたしじゃないか

あたしいつも 自分のこと ばっかでさ アンタに甘えて わがまま 言いたい放題で

きっと何度も 傷つけて きたんだと 思う

だからアンタが あたしに恨みを 抱くのも 無理ない事だし

今のあたしは 自業自得の結果 なんだって 思うのさ

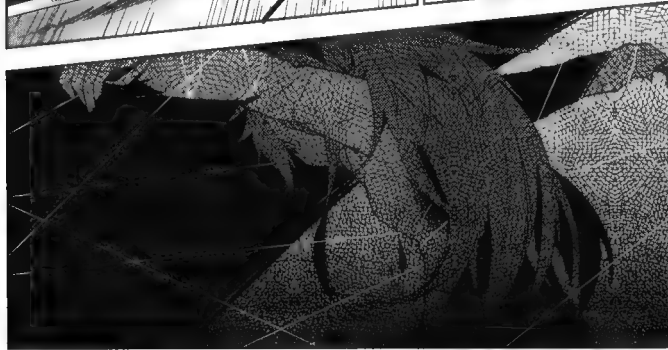
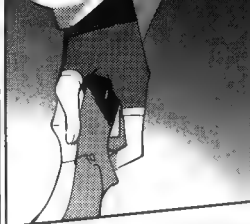
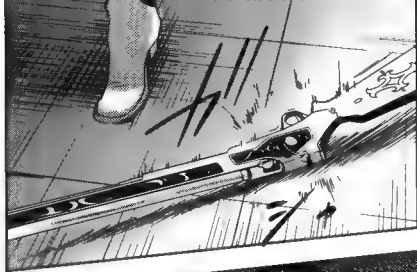
…今さら どういうつもり？ 命乞い？

…ただ 謝りたかった だけさ

ごめん
マミさん
アンタの気が済むようにやればいい
…いいよ
撃ちなよ

…待ってて

スッ

う…ッ
あ…
生き残ったのは君の方か

仕方ないね
君だけでも無事でなによりだ
キュゥ…べえ…
さやかを倒す前に魔力が尽きてしまったようだね
そのソウルジェムはもう限界だ
魔女が孵るまでにはまだ時間がありそうだけど…ここで見届けさせてもらうよ
それもまた僕の役目だからね

……そっか

私

魔女に なっちゃうんだ

美樹さん

側にいて あげられなくて ごめんね

やっぱり私って 駄目だなぁ…

もっと強い 意志さえあれば なんだって 出来たはずなのに

肝心な所で 迷っちゃうから いつも失敗 しちゃう…

また負けたー！
うう…
まだまだ甘いわね
マミさんのリボン卑怯だよ！
本数に制限なしでその上自由自在に操れるんでしょ？
そんなの避けられるわけないよ！
実戦の時にもそんな言い訳するつもり？
魔女との戦いに卑怯もなにもないのよ？
パチン
それに私の魔法が卑怯だって言うなら
佐倉さんの幻惑魔法はどうなっちゃうのかしらね？
あうう…

せめてもう少し手加減してくれたっていいよね？
一度くらい勝ちたいよ…
だーめ！訓練にならないでしょう？
けち…
…
だったら手加減はしないけど…
報酬つきの勝負はどう？
私に勝った時は可愛い後輩の言うことなんでも聞いてあげちゃうわ
!!
なにそれ乗った！
ホントになんでもだね!?
もう、叶えられる範囲だからね
…まあ佐倉さんの場合
今の調子なら私なんてすぐに追い抜いちゃうわよ

佐倉さんには
十分な素質がある
その上成長が
本当に早いわ
不得手な
治癒魔法を
カバーでき
さえすれば
右に出るものは
いないくらいに
成長すると思う
そ、そう？
そうよ
だから
自信を
持って？
こんなに優秀な子が
友達になってくれて
私も鼻が高いん
だから
…ねえ
マミさん
どうしたの？
…その
マミさんは
あたしのこと
いつも友達って
言ってくれる
けどさ…

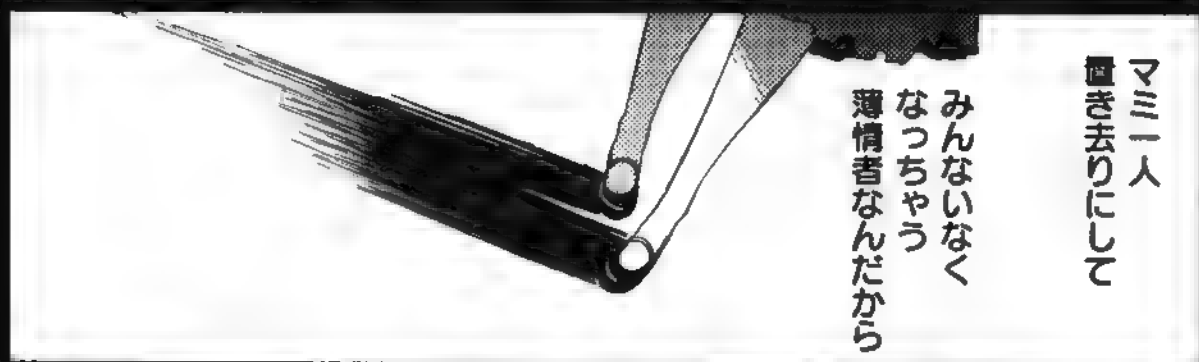
あたしにとってのマミさんは
友達っていうのとは…ちょっと違うっていうか
どういう…こと？
えーっと変な意味じゃなくてさ
その…
…ううんやめとく！
さ、行こ！
…そう…なんだ

友達じゃ…
ないんだ
そう…だよね
だって佐倉さんは
魔法少女として
強くなるために
私と一緒に
いるんだもの
一人前になったら
きっと私の下を
去っていって
しまうんだ
それならせめて
少しでも長い間
側にいて
くれるように…
私にできる努力は
どんな事だって
取り組もう
たとえば
誰よりも強くて
頼りがいがあって…
品が良くて
みんなに優しくて
絵に描いた
魔法少女のように
優雅でいて
それから…

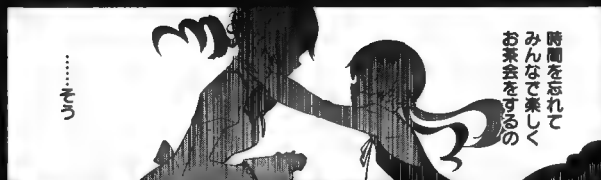
もうやめよう？

無理して頑張らなくてもういいの

どんなに努力したって

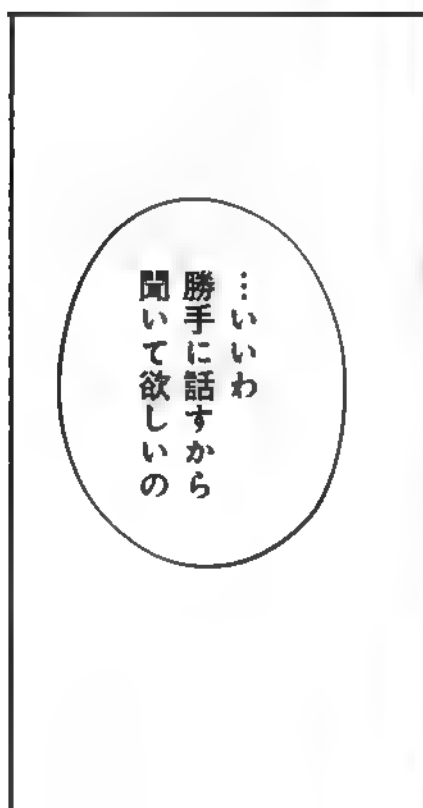
みんなはマミのがんばりに応えてくれないもの

マミ一人置き去りにして

みんないなくなっちゃう

薄情者なんだから

時間を忘れて
みんなで楽しく
お茶会をするの

……そう

私が魔女になっちゃえば

ずっとみんな私のそばに…

びっくりした?
目覚めたかい

第11話

…なるほどね

僅かながら能力が戻っていたのか

ふん

奥の手は最後まで
取っておくもんだな
仮にも元仲間
だってのに
躊躇なくぶっ放すか
フツー？

…まあ、
お陰であたしは
こうしてアンタを
出し抜けたわけだし
構わねぇ
けどさ……
……

グリーフシードが
無くっちゃ
さすがのマミ先輩も
お手上げだな

残念ながら
あたしも
持ってないんだ
だけど……
…さ……

……怒ってんのかよ…？

またアンタを裏切るような真似しちまったせいか？

言い返してくれなきゃこっちの立つ瀬ってもんが…

違うの

私にもあったのよ
佐倉さんに謝らなくちゃいけない事

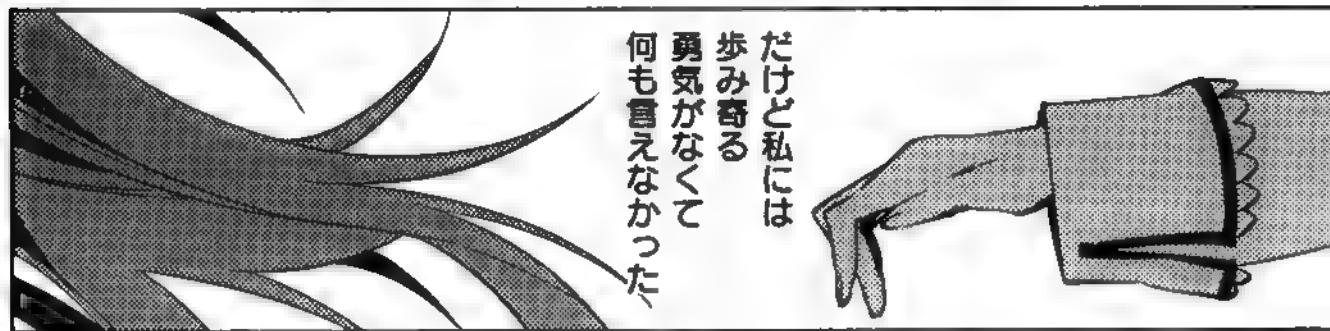
だから改めて反省会しない？

…はあ？

戦いが終わった後は必ずそうするのが決まりだったでしょう？

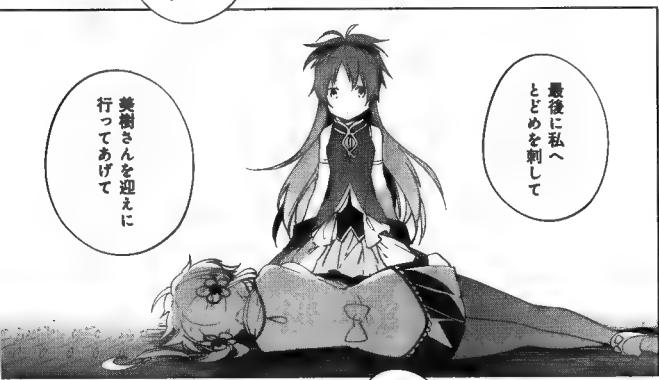
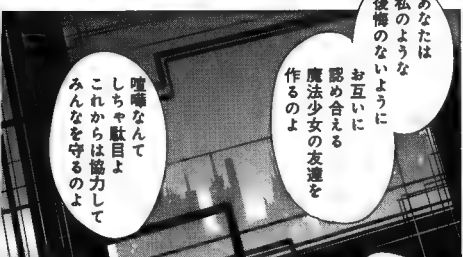
お茶をしながらここが良かったとか悪かったとか話し合ったじゃない

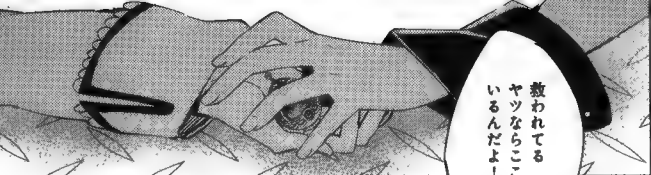
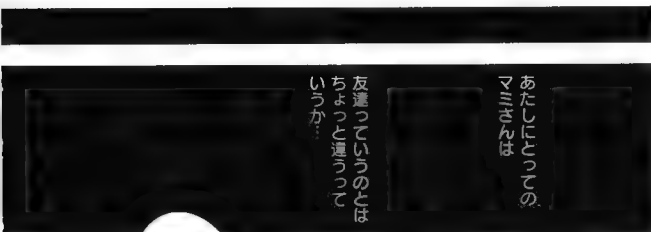
…いいわ
勝手に話すから聞いて欲しいの

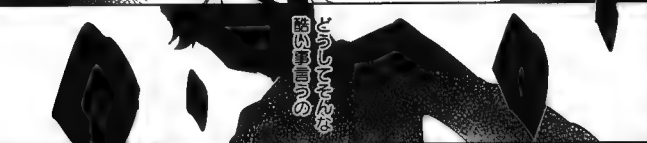
家族もいない孤独な魔法少女同士だったのに
結局お互いを繋ぎ止めるのは戦いや争いでしかなかったのが心残りなの

……
あの時の私に勇気があればこんな争いもせずに済んだんじゃないかって…反省してる

……次は佐倉さんの反省点ね

今更アンタに 教わる事なんか ねーよ！
ソイツを 抜きにしたって 十分アンタと 渡り合ってたろ!?
…ッ 調子に乗ってん じゃねえよ！
そう？ あなたより新人の 美樹さんだって あれくらいはやるわよ？
あたしは アンタらみたいに 他人と馴れ合うぬるい ヤツとは違うんだ！
あたしは 独りだって負けねえし アンタだっていつか 追い抜かして…
どんなに強い ものにだって 弱点はかならず あるものよ

だからこそ
私達は
独りぼっちじゃ
駄目だったのよ
たとえば佐倉さんにも
苦手な魔法はある…
それはあなたも
わきまえてる事だと
思うけど
逆にその魔法を
得意とする子が
身近にいた
でしょう？
互いの弱さを
認め合って
みんなで
補い合えば
私達には
もっと素敵な
未来があった
はずなの
一人でカッコよく
ならなくちゃとか…
足手まといだから
一緒にいたら
いけないとか
見せかけの
強がりで
幸せを逃しては
駄目よ
そんな嘘は
寂しいだけだから

…反省会は
これでおしまい
最後に私へ
とどめを刺して
美樹さんを迎えに
行ってあげて
…あの子を助け
たかったんでしょ？
きっと大丈夫
あなたなら救って
あげられる
あなたは
私のような
後悔のないように
お互いに
認め合える
魔法少女の友達を
作るのよ
喧嘩なんて
しちゃ駄目よ
これからは協力して
みんなを守るのよ
この街を
あなた達に
任せるから…
…なにを
言ってんのさ…

アンタ一人死ねば済む話だとか…そんなバカなこと考えてないよな？
あたしは…そんなの嫌だぞ！
どうして？
私はあなた達を殺そうとしたのよ？
アンタはただ挑発に乗って戦っただけだろう!?
悪いのは全部あたしだろ？それでいいじゃないか！
マミ一人で責任被る必要なんかないだろ？
だって魔女になるなら死ぬしかないじゃない！
……っ
今更反省したって後悔したってソウルジェムの穢れが消えるわけじゃない…
もういいの…お願いだから死なせてよ！
何も救えない私なんて生きている意味がないんだから！
そんなことできるわけないじゃんか！

救われてるヤツならここにいるんだよ！
だってアンタはあたしにとっての巴マミってヤツは…
最後の…家族なんだ
あたしにとってのマミさんは
友達っていうのとはちょっと違うっていうか…
…ううんやめとく！

マミさんが
本当のお姉さん
みたいだなんてさ
笑われそうで
言えないよ
…と…
父さ……
これは…えっと
説明すると
長くなるん
だけど
あたしは
その…
魔法少女
なんだ
…あたしはただ
父さんの役に
立ちたくてさ
それに
魔法少女は
本当に人を救う
力があるんだ
だから
あたしは…
来なさい

どうして…
優しい父さんはどこに行っちゃったんだよ
どうしてそんな酷い事言うの
あたしは魔女なんかじゃないのに…
母さん？これ…どうしたの
ちょっとドジっちゃって
ビンが割れて切っちゃったの
大した傷じゃないから大丈夫よ
……父さんなの？

あ…あたしのせいだよ！
父さんは悪くないんだ
全部あたしが…
誰も悪くない
だって杏子もお父さんもみんなのためにって
ずっとがんばっていただけだもの…
…ごめん
ごめんなさい
母さん
父さん…
モモ
もしもあたしがマミと出会ってなかったら
あの時魔女になってたかもしれないんだ

何もかも失って
絶望に飲み込まれ
そうになった時
アンタのことを
思い出した

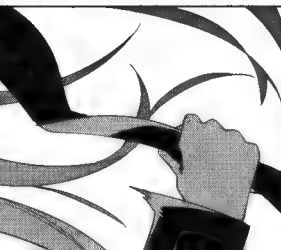
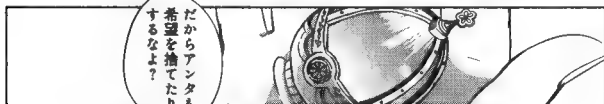
アンタがあたしに
してくれた
沢山の当たり前が

あたしに強さと
希望をくれた

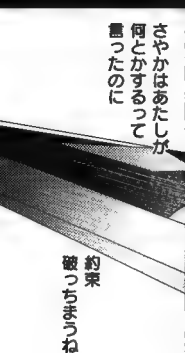
アンタが
今の今まで
生きてて
くれたこと

そいつに
あたしの命は
繋ぎ止められたんだ

アンタを殺す覚悟っていうのも全部嘘さ
自分のせいで家族が死んじまうなんて絶対に嫌だからな
あの時みたいなのは二度とゴメンだ
この街に来た理由だってそうだ
やり方こそズレちまったけどただあたしはアンタ達の幸せを守りたかっただけなんだ
…なんて今更ガラじゃないかもしれねーけどな
ともかくアンタが大事な仲間を傷つけずに済んで
なおかつ無事でいてくれたのならあたしはそれで十分だ

…さて
ソウルジェムはもう心配ないね
あたしはさやかのヤツを…迎えに行ってくる
…待って私も……
駄目だ寝てろ
動けないだろ?足手まといはごめんだよ
……
…だったら約束して
家族はお互いを心配させたりしないものよ
もう二度と勝手にいなくなったりしないって…約束して

こいつに
誓うよ
あげるわけじゃ
ねーからな
大事な
もんだから
絶対取りに
戻ってくる
ソイツがアンタの
元にある限り
あたしは死んだり
しない
だからアンタも
希望を捨てたり
するなよ？
…うん
約束よ
帰ったら
みんなでケーキ…
頂きましょうね

改めてアンタにお願いしたい事があるんだ

ゴ
ッ
友達……か
結局アンタとは解り合えないままだったね
…いや

美樹さやかが
魔女になった
ところなんて
あたしは見ちゃ
いないんだ
だから
アンタが本当に
さやかなのか
どうかって事も
解りゃ
しないのさ
…そう思っとけば
いくらか振るう槍も
軽くなるかな
ごめんな
まどか
さやかはあたしが
何とかするって
言ったのに
約束
破っちまうね

ねえ神様
世界を救うだとか
みんなの幸せを
守るだとか
あたしはそんな
神様の真似事を
したかった
わけじゃないんだ
ただあたしは
目の前の家族と
友達を
救ってやれる
ような

そんな
正義のヒーロー
みたいなヤツに
なりたかった
だけなんだ
…聞いて
父さん
今日もね
あたしは魔女を
倒したんだ
自殺しそうに
なってた人を
一人救ったんだよ

これってさ…
悪いことなのかな…

ここは
私の家だ…

私は一体……
マミさん…？

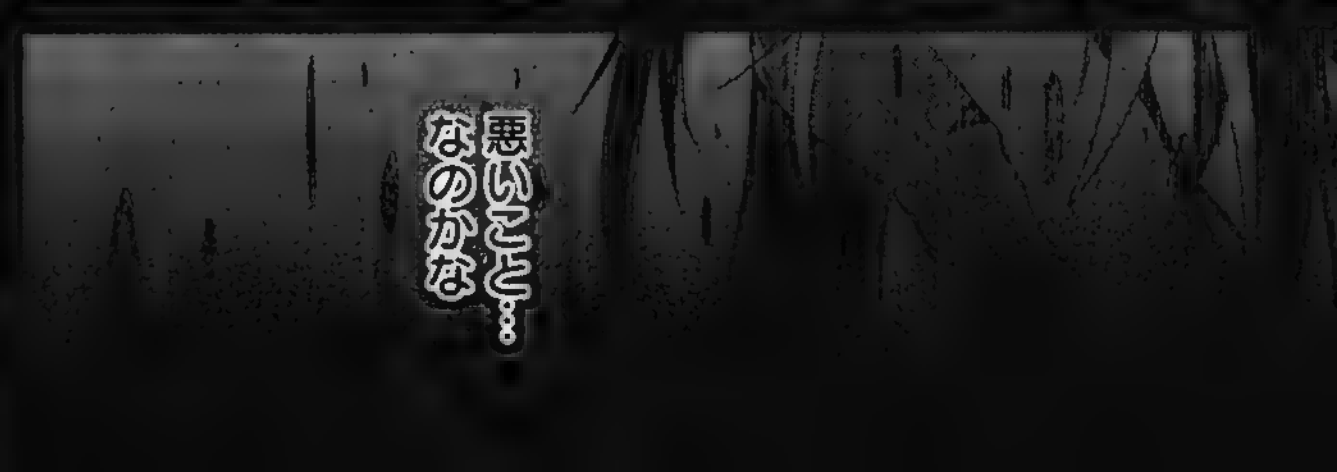
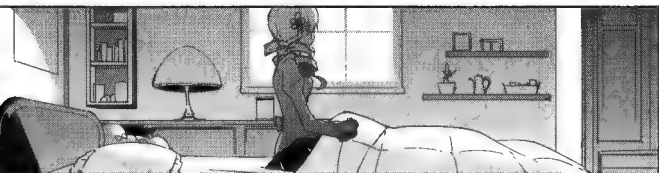
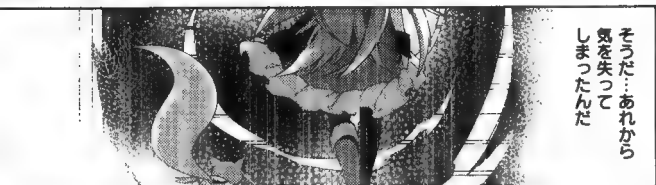
はっ
わっ!?
鹿目さ…
良かった！
マミさん…
？
どうして
鹿目さんが…
あなたは丸一日
眠っていたの

暁美さん…

失礼だけど家の鍵を借りさせてもらったわ
休むなら馴染みの部屋のほうがいいと思って

マミさんが一人で倒れていたところを
ほむらちゃんが助けに行ってくれたんですよ

…一人……

そうだ…あれから気を失ってしまったんだ

マミさんだけでも助かってくれてよかったです…
美樹さやかは魔女に殺されたわ
佐倉杏子は…知らない
私が駆けつけた頃には手遅れだったの
あなたしか助けられなかった
どういうこと…？
美樹さんが魔女に殺された？
ほむらちゃんはなにも悪くないよ…
マミさんだって…
……っ…
ちょっと待って

…ねえ暁美さん？
美樹さんは本当に魔女に…
まどかには知られたくない
今の話…本当にあなたが確認した事？
一度話し合いの場を設けましょう
まどかあなたはもう帰った方がいいわ
家の人が心配してしまう
あなたも辛いでしょう
……
…うん
後のことは私に任せて
ごめんねほむらちゃん

私に協力して欲しいの

巴マミ

ゲスト
キャラクター
紹介。
姉妹の魔法少女&魔女。白が姉で黒が妹。
姉が揃えた獲物でジュースを作り、妹がジュースでミツを作る。
ピンとピンクッション。いつまでも一緒の仲良し姉妹。

最終話
暁美さんは解っていたって言うの…

美樹さんが魔女になることも

私のしたことも…

…そう
今日まであなたが生き延びたのは意外だったけれど
運がいいわ

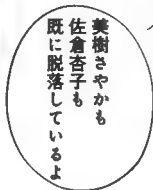
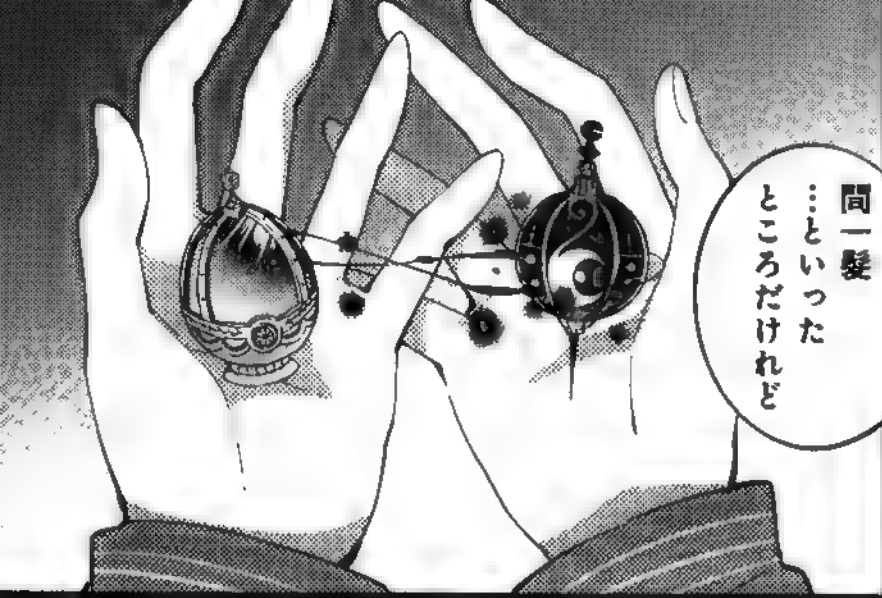
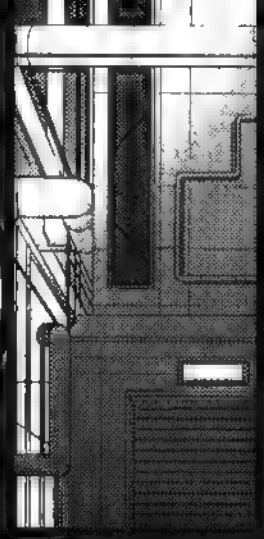
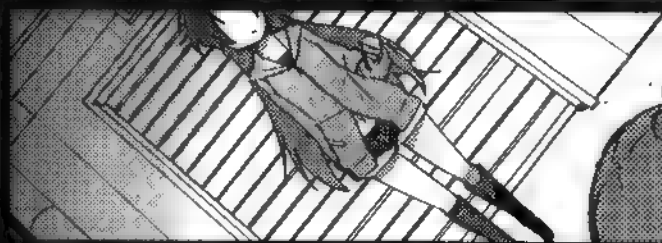
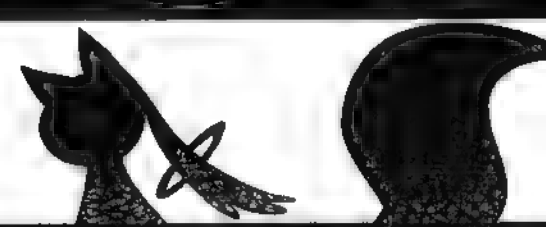
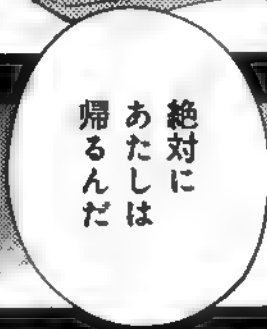
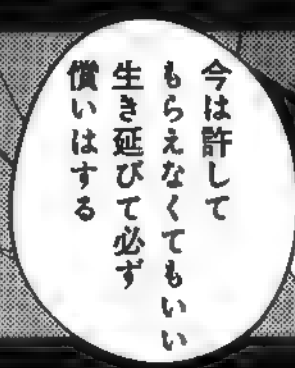
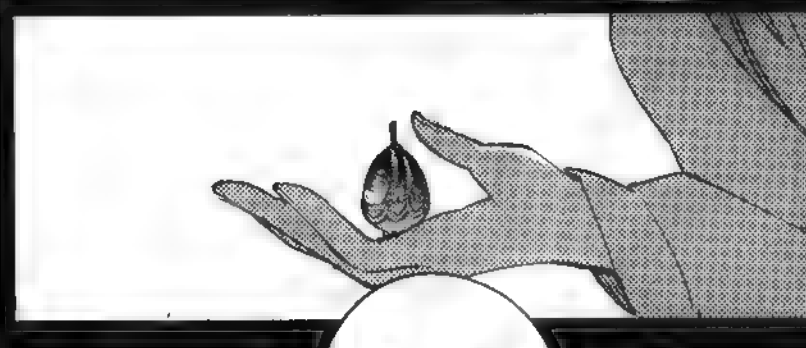
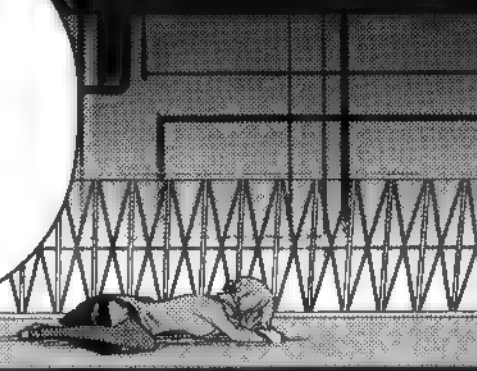
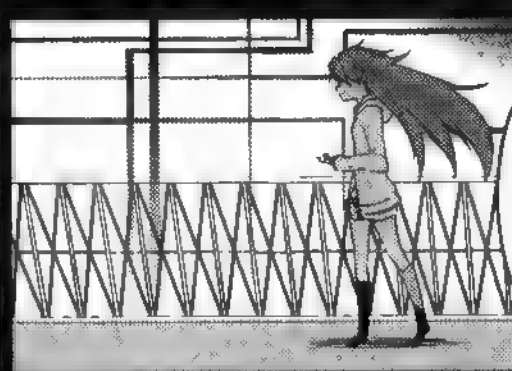
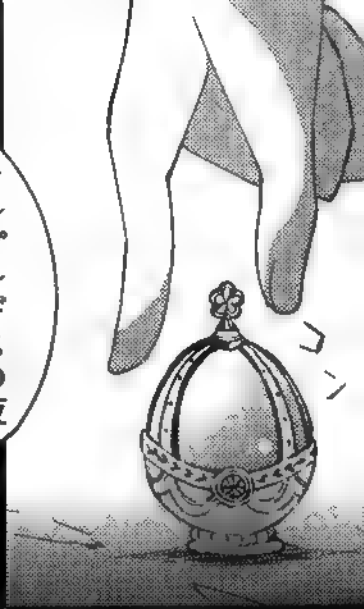
ええ確実に奴は来る
私と佐倉杏子はそいつを倒すために組んでいたの
そしてあなたにも討伐に加勢してもらいたい
こちらの要求はそれだけよ

要求は理解したけれど
そんな大事なことどうして今まで…
あらかじめ伝えたとしてあなたは私の言葉を鵜呑みにしたかしら
………
機会を待ってあなたを引き入れる
それが私達の望んでいたこと
協力してくれるかしら？
…そうあの子の行動がやっと繋がった
佐倉さんは覚えていてくれたんだ
？
昔ね…二人で約束をしてたのよ
一緒にワルプルギスの夜を倒す
この街を一緒に守るって
そういう話をしたことがあったの

引き受けてくれるということ？
…うん約束よ
もう二度といなくなったりしないいって
帰ったらみんなでケーキ…頂きましょうね
そして今はもう一つの私とあの子との約束事がある
…私を疑っているの？
佐倉杏子の行方を知らないのは本当よ
美樹さやかの結界だって見ていない
疑うわけではないけど…なら二人はどこに行ってしまったの？
勿論この街を守るのは私の使命だけど
二人がいてくれないのなら
私は…
推測でものを言うべきではないのかもしれないけれど

あなたは本当に
ソウルジェムを
浄化されたの？
…え……？
あなたはさっき
佐倉杏子に
ソウルジェムを
浄化されたと
言っていたけど
ただでさえ
手柄争いで苦しい
状況であったにも
関わらず
グリーフシードの
予備を持てるほどの
余裕が彼女に
あったのかしら？
それは…
間違いないわ
浄化してくれるのを
この目で見たもの
それが幻惑魔法の
可能性はないの？
…どういう
こと？
何が…
言いたいの？
…それじゃあ…

このソウルジェムは
佐倉さんは
どの魔女の
グリーフシードで…？
誰の？
…さ……
佐倉さんが美樹さんを殺したっていうの!?
そんなむごいことあっていいはずが…
どうかしら
仮に彼女がグリーフシードを持っていたとしても
あなたとの戦いでの消耗を回復できていないはず
………
いずれにしても二人とも何事も無く無事というのは考え難い

…そうでしょう？
むしろ今は君が助かったことを喜ぶべきじゃないのかな
マミ？
キュゥべえ…！
そうよ
あなたは佐倉さんと一緒にいたはずよ
あれから
どうなったのか
見ていたはずよね？
ああ
もちろん
見ていたさ
美樹さやかも
佐倉杏子も
既に脱落しているよ

同一髮
…といった
ところだけれど
本当に
よかったのかい？
いいんだよ
この場でマミを
見捨ててみろ
それこそさやかに
顔向けなんか
できないよ
バカな後輩二人が
意地張り合って
振り回さなけりゃ
コイツだって
こんなふうに
擦り切れずに
済んだんだ
落とし前の一つも
つけられなくて
なにが家族だ

ワルプルギスの夜
…なんて
ホントはどうでも
よかったんだ
ただ仲直りの
きっかけが
欲しかっただけ
なんだ
ごめんって
すぐに謝ってたら
アンタの言うとおり
楽しくみんなで
過ごせたのかな…
今は許して
もらえなくてもいい
生き延びて必ず
償いはする
絶対に
あたしは
帰るんだ
やがて辿り着いた
結界の中で
杏子の魔力は
底をつき
魔女との戦いに
敗れたよ

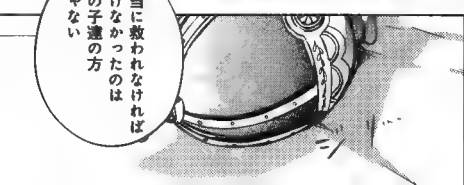
彼女も愚かだった

普段通り積極的にグリーフシードを集めていれば生き残った可能性もあったのにね

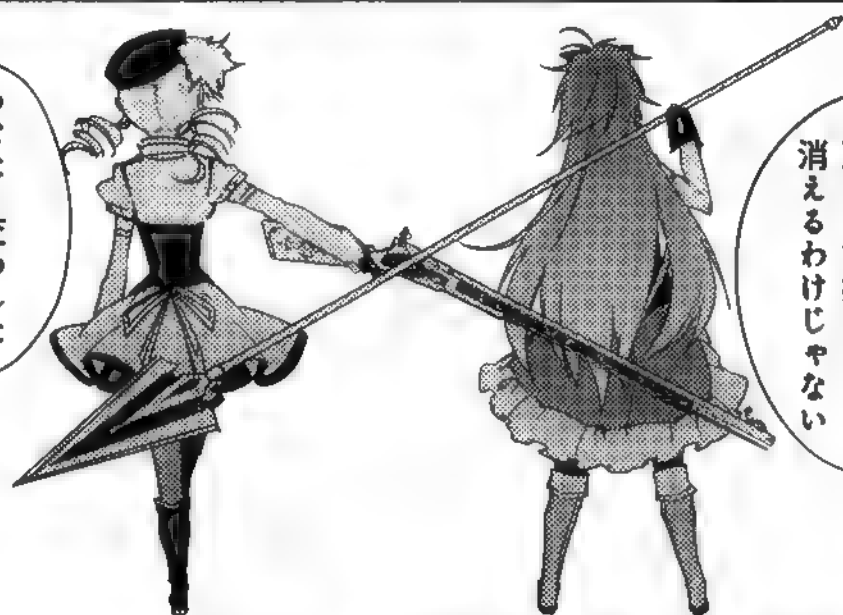
一つ僕の発言を訂正するよ

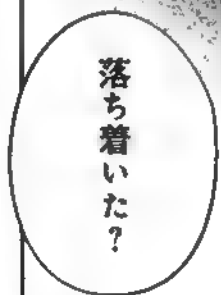
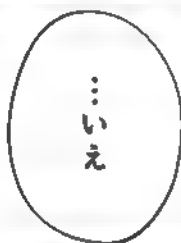
美樹さやかが魔女になった直接的な原因は君達じゃない だって君達は揃いも揃って魔女狩りをできるかぎり避けていたわけだしね

あなたは私達の命を
なんだと思っているの
どうしてこんなことをするの…
僕はただ君達の願いを叶えたに過ぎないよ
僕との契約で交わした願いは確かに君の心からのものだったはずだ
叶えた願いの対価を受け取る権利はあっていいはずだよ？
いらない！
君こそどうして仲間の生き死ににそこまで拘るんだい？
大切な仲間を犠牲にしてまで私は生きたくなんか…

君の生きるという
願いを叶えるために
君の手で
積み上げてきた
魔法少女の犠牲を
顧みれば
今更仲間二人の
犠牲なんて
大したものじゃない
だろう？
…その通りだ
いつだって私は
正義のためって
嘘ついて
どうして自分勝手な
私が生き残って
誰かのために戦った
あの子達が
死ななくちゃ
ならなかったの？
本当は
自分の為に
戦っていただけ
なんだもの
本当に救われなければ
いけなかったのは
あの子達の方
じゃない

いっそあの子の手で
終わらせてくれた方が
ずっと幸せだったのに
そんなに
死にたいの？
それで…殺して
くれるの？
…なに？
私を…

他に手を下す者がいないから私にやれとでも言うの
そんなの冗談じゃない
冷静さを欠いては駄目ヤツの言葉に惑わされないで
ワルプルギスの夜が一度顕現してしまえば
数千という大勢の街の人々が犠牲になってしまう
あなたが幾ら魔女を犠牲にしようとも
あなたが救ってきたそれ以上の大勢の命があることを私は知ってるわ
あなたがここで死んでしまったらこれまで守り通してきたもの全て
一瞬にして魔女に奪われてしまうのよ

でも…私は
あの子達を
誰にだって
できる事と
できない事がある
自らの無力さを
認められずに
破滅するよりも
無力を認めて
生き延びたほうが
ずっとマシでは
ないの？
……
かつて私にも
あなたのように
救われたことが
あった
仲間割れの末の
道連れに巻き込まれ
そうになった私を
大切な仲間を
犠牲にしてまでも
助けてくれた人がいた
結局その人も
魔法少女の運命を
覆すことは
できなかったけれど
私に二つの約束と
生き延びる希望を
託してくれた

その人との約束を果たすまでは
私はこの救われた命を無駄にしないと決めたの

たとえ死に別れたとしても互いの気持ちが消えるわけじゃない
あなたも交わした約束があるなら
今こそ叶えるべきだと私は思う

落ち着いた？
さっきはごめんなさい感情的になってしまって
ごめんね
ううん悪いのは私の方だから
不思議な感じ
あなたにいつも教わっていたのは私の方だったのに
？
…いえ
ここで話したことを鹿目まどかには伝えないで欲しい
あの子の平穏のためにもこちらの事情は伏せておきたいの
…そうねわかったわ
──明日もう一度尋ねるから
協力するかどうか決めておいて欲しい

暁美ほむらと
手を組むのかい？

僕としては…

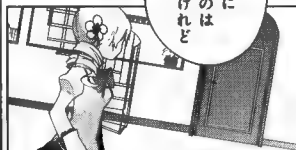
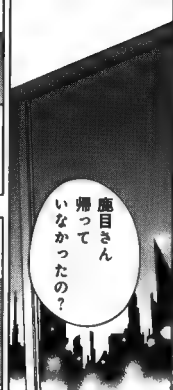
さっさと
消えて

今は
あなたと話す
ことなんて
なにもない

一人にして

…そうかい

君が一人に
なりたいのは
構わないけれど
どうやら君に
用事のある子が
いるようだ

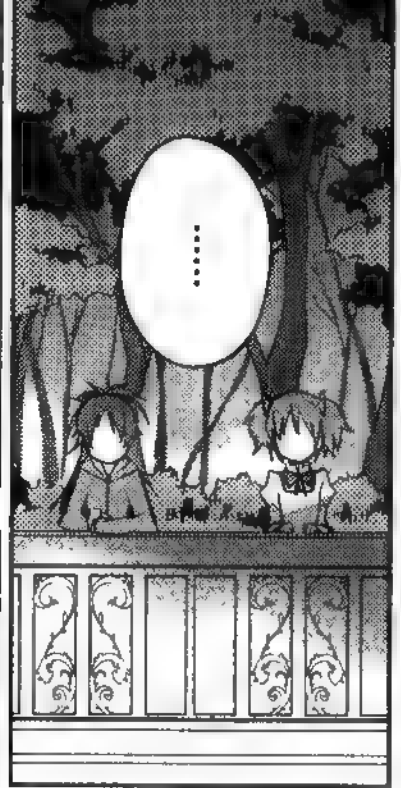
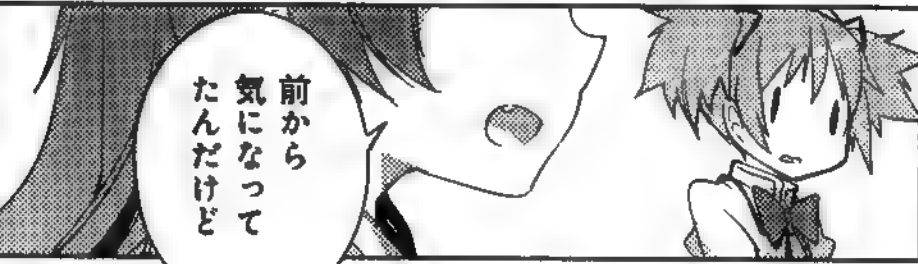
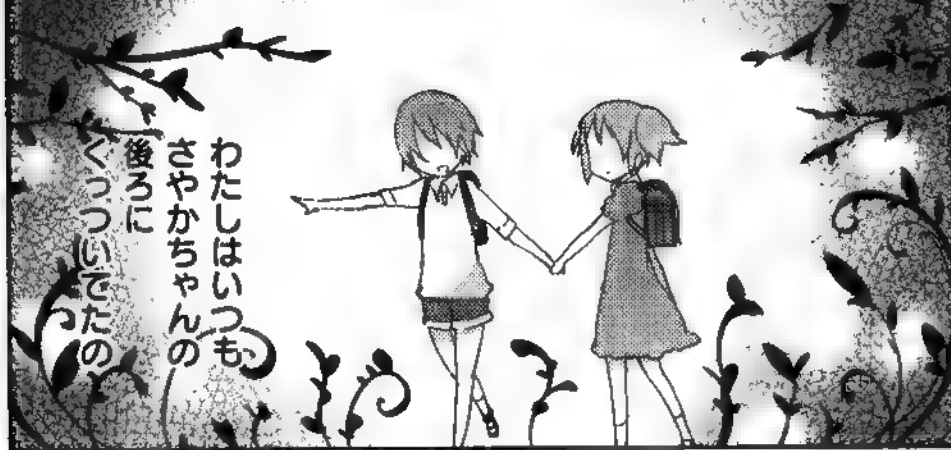
はい
お話が
あるんです
鹿目さん
帰って
いなかったの？
マミさんに
どうしても聞いて
もらいたかった
事があるから
話…？
ずっと…
マミさんと
さやかちゃんに
言えなくて
黙っていた
ことが
あるんです
わたし
佐倉杏子ちゃんと
友達になって
いたんです

杏子ちゃんに
会ったのは
わたし達が
ほむらちゃん達に
助けてもらった
後のことでした

あの…

佐倉さん…
だよね？

自己紹介
まだだったよね
わたし
鹿目まどかって
いいます

昨日はありがとう
わたし達を助けて
くれて…
礼ならほむらに
言いなよ
あたしは魔女
狩りに行った
だけさ
…で、でも
佐倉さんに
だって
杏子でいいよ
その呼び方
好きじゃない

……
早速気まずくなっちゃったなあ…話しかけたのわたしなのに
あ、えっと…
前から気になってたんだけど
ハナっから魔法少女になる気なんかないんだろ？アンタ
なんでアイツらについて回ってんのさ？
……え…
…なんでわかったの？
なんとなく

それと反対に
周りに迷惑かけて
ばっかりなわたしが
ずっと好きに
なれないままで…

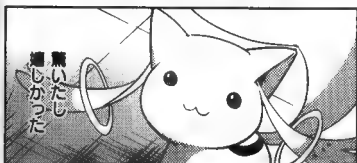
得意なものは
なにも
なかったけど

ただ漠然と
誰かの役に
立ちたいって
ずっと思ってたの

そんな時に
出会ったのが
マミさんだった

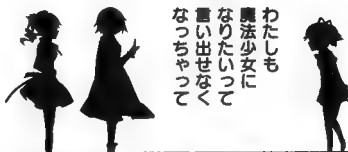
わたしも魔法少女になれば

さやかちゃんやマミさんみたいにカッコよくなれるんだって…

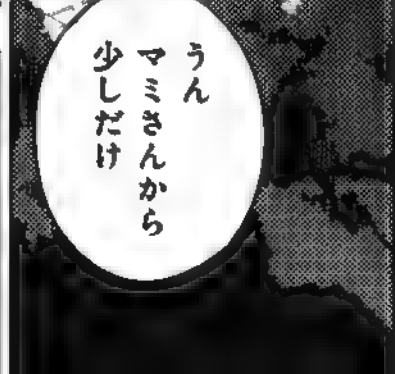
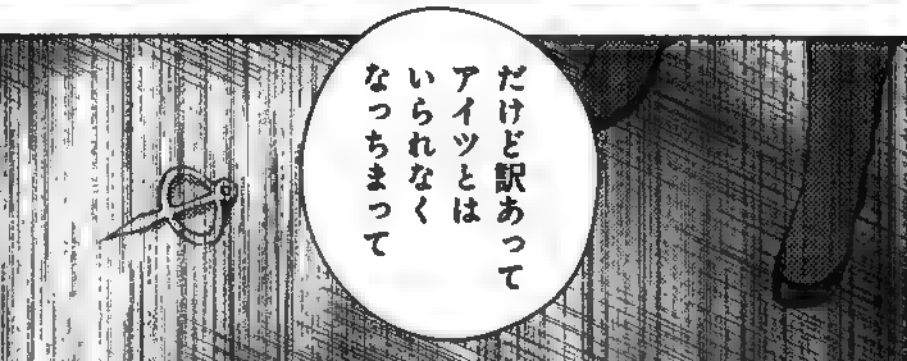
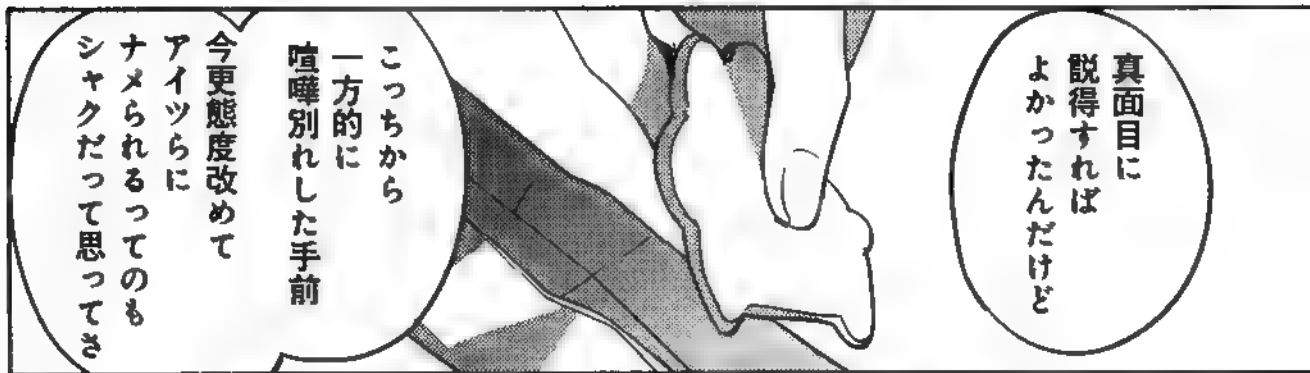
だけど

わたしより先に魔法少女になったのは

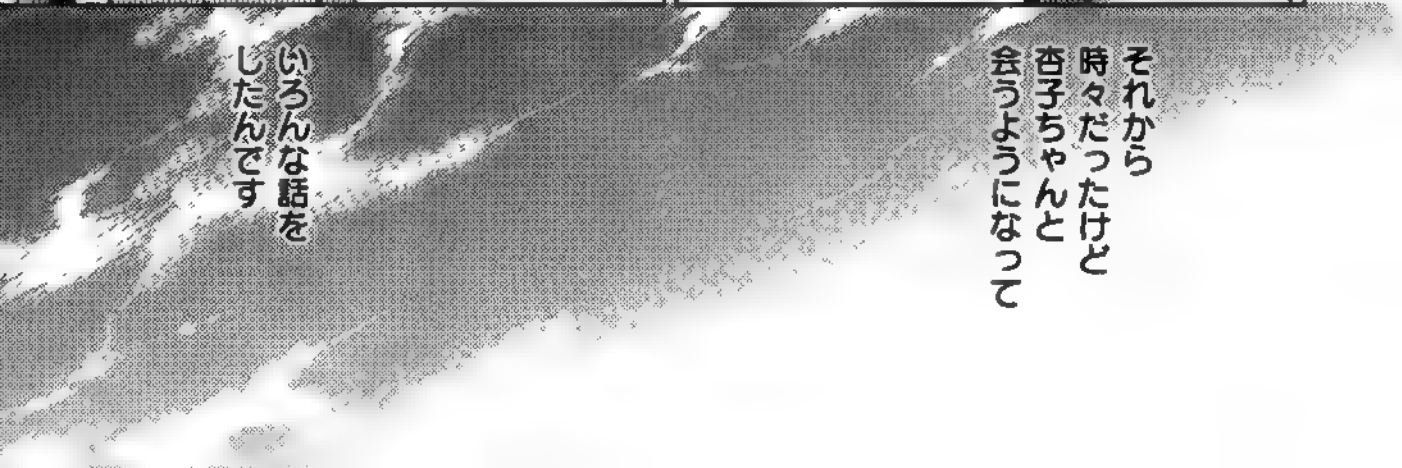
間一髪だったね！マミさん！

それから少しずつ
さやかちゃんが遠い存在になった気がしたの

元々
頼もしかった
さやかちゃんが
魔法少女になって
これから
よろしく
お願いします
マミさん！
着々と
上達して
いるわね
マミさんと組んで
これまで以上に
頼もしくなって…
ホントですか!?
わたしも
魔法少女に
なりたいって
言い出せなく
なっちゃって
今のわたしが
仲間になった
ところで
二人の足を
引っ張るだけ
なんじゃないかって
怖くなったの
息の合ってる
二人のチームワークを
わたしのせいで
乱しちゃったら
嫌だなって…
…なんて
ごめんね
ほとんど
話したこと
ないのに
いきなり
こんな話
しちゃって…

スッ

ほら
食うかい？

…あたしとマミが昔馴染みだってのは聞いたのか？
うん マミさんから少しだけ
マミの弟子だったあたしはさ
強くて頼りになるアイツをすごく尊敬して
自分もああなりたいって憧れてた
だけど訳あってアイツとはいられなくなっちまって

代わりの相棒が
見つかればいいって
思ってたはずなのに
いざ再会
してみたら
アイツのやり方に
納得いかなくて
心にもない
余計な口出しして
怒らせちまったんだ

真面目に
説得すれば
よかったんだけど
こっちから
一方的に
喧嘩別れした手前
今更態度改めて
アイツらに
ナメられるってのも
シャクだって思ってさ

けど
そんな調子で
うまいこと
事が進むわけ
ねえっていうか
自分に
イラつくって
いうか…

…杏子ちゃんって
ホントに意地悪な
子だなって
思ってた
……
だけど全然
そんなこと
ないんだね

そっか…杏子ちゃんも二人のことで悩んでたんだね なんだか安心しちゃった

ごめんね いいことじゃないのに

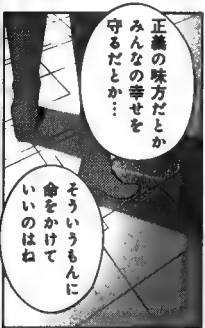
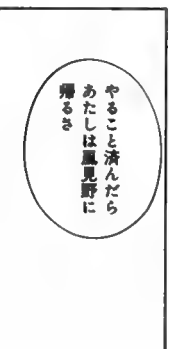
気にしてないよ

今日会ったことは内緒にしとけよ 厄介事は勘弁だからな

うん、いいよ わたしも今の話は内緒にしておきたいから

それから時々だったけど杏子ちゃんと会うようになって

いろんな話をしたんです

あはは
アイツバカだな
ほんと…

本当に限られた相応しいヤツだけだ

やること済んだらあたしは風見野に帰るさ

あたしみたいな忘れたい過去にいつまでも目の前うろつかれちゃ
アイツにとっても迷惑だろうしな
マミさんはそんなこと…
杏子ちゃんはそれでいいの？
ちゃんと解るよ…ホントは仲直りして一緒に戦いたいんでしょ？
一度はケンカになっちゃったかもしれないけどきちんと話せばマミさんだって解って…
アンタはもう首突っ込まない方がいい
…マミとさやかの事は心配すんな
アイツらにもしもの事があったらあたしがなんとかする
もう帰んな家族を心配させるもんじゃないよ
明日は学校だってあるんだろ？

わたしはさやかちゃんのために…

大切な友達のために魔法少女になりたい

さやかちゃんには助けてもらってばかりなわたしだったから
さやかちゃんが困ってる時はわたしが支えてあげなくちゃいけなかった
これからもさやかちゃんのこと
よろしくお願いし
それなのにわたしは二人に遠慮して…どこかよそよそしくてさやかちゃんのことをマミさんに任せっきりで…
あの時わたしが素直に仲間に加わっていればきっと
さやかちゃんだって魔女に殺されずに済んだんじゃないかって思ったら…
今更遅いって解っているんです
だけど
だからわたし
私は反対よ

あなたが美樹さんを助けたいって気持ちはとても解る…
けどあなたが魔法少女になれば美樹さんと同じ目に遭う危険を孕むのと同じこと
他人のために魔法少女になればいつかあなたも願いに裏切られる時が来る
あなたまで失うなんて私は絶対に嫌…
…やっぱりそう言われるかなって思ってました
でもわたしが魔法少女になりたいのはさやかちゃんのためだけじゃないんです
わたしはマミさんに普通の女の子に戻ってほしい

魔法少女に なったら いいことばかり じゃない
思い通りに うまくいかない ことも
辛くて苦しい事 ばかりだってことも 二人を見てたから 解ります

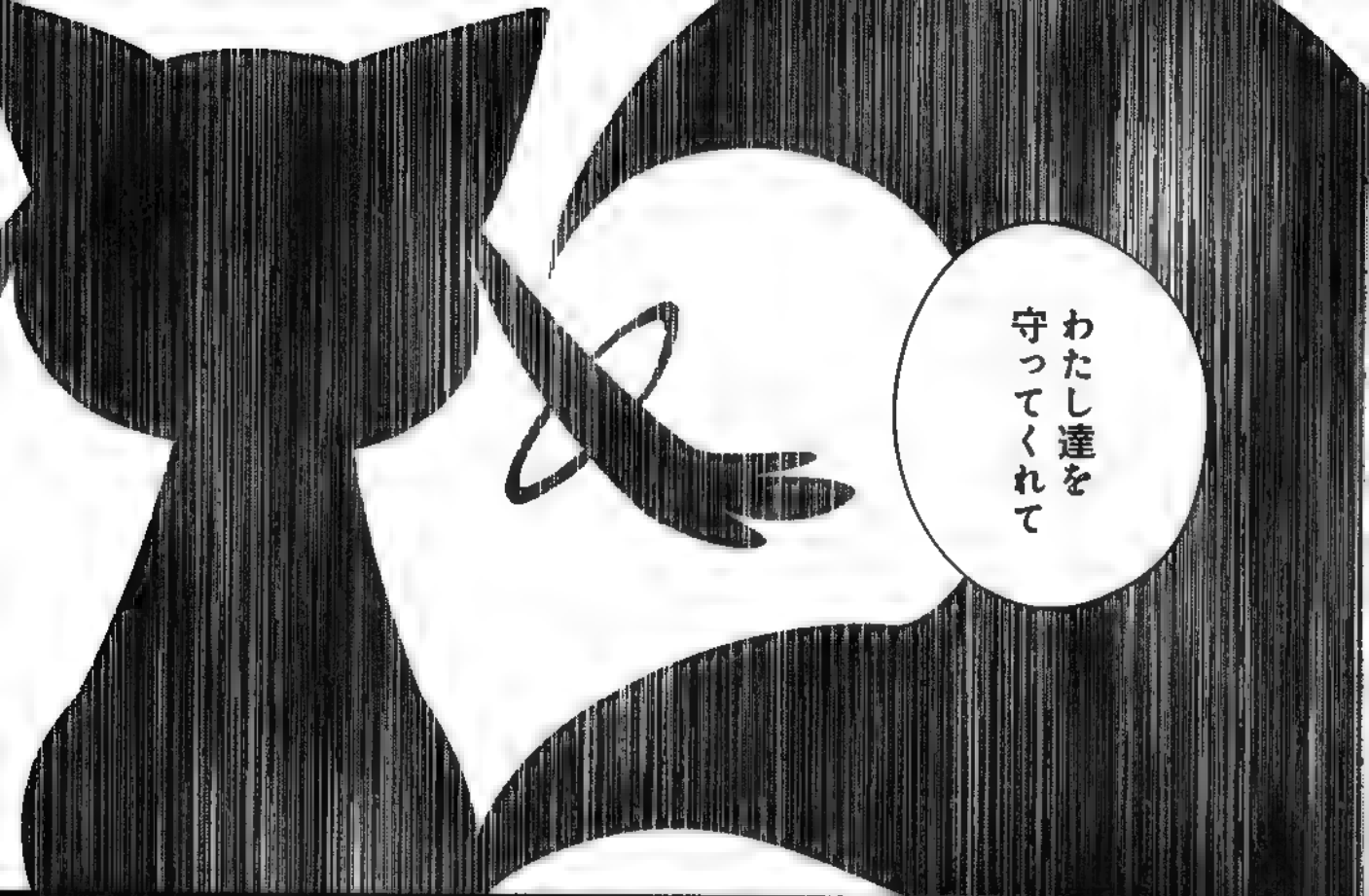
だけど そんな苦しさを マミさんは一人で 抱え続けながら
わたし達と 会う前からこの街を 守ってくれて いたんですよね

おはようとか お帰りなさいなんて 言ってくれる 家族がいないなかで
魔法少女を 続けていくのが どんなに辛いこと なんだろうって 時々考えちゃって…

わたしが マミさんの 立場だったら… って思うと
泣いちゃうん です

一人で寂しくても きっと誰にも 言えなくて
やりたかった 普通のことを ずっと我慢 してきたんじゃ ないかって思うから

だから今まで
辛かったぶん
マミさんには
普通のことを
してもらい
たいんです
クラスの友達と
楽しく遊んだり
部活動を
がんばったり…
そんな普通の
幸せを思い出して
欲しいんです
マミさんを
魔法少女じゃ
なくす事は
できないし
家族になることも
できないけど…
マミさんの代わりに
戦うことはできるから

…ないの
…嫌なの…
もう戦いたくなんかない！
魔女なんて殺したくない！
私は…っ
大丈夫です もう いいんです
ありがとう マミさん
今までずっと街のみんなを守ってくれて

わたし達を守ってくれて
もうなにも心配いらないよ、マミ
鹿目まどかはね君をも遥かに凌駕する力を秘めているんだから

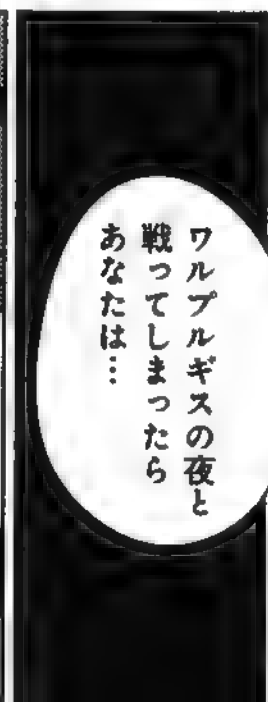
どうしたの
まどか
…ごめんね
マミさんのこと
思い出しちゃって
…そっか
辛かったね
どんなことが
あっても
あたし達は
後悔しない
そう覚悟を
決めて
魔法少女に
なったんだ
この街を
守ってきた
マミさんの分まで

あたし達が
頑張らなきゃ
いけないね
巴マミが私の手を取ることはなかった

巴マミの言動が鹿目まどかの契約を誘発し

鹿目まどかは美樹さやかのために魔法少女となり

巴マミは最期に言付けを残し自らのソウルジェムを砕いた

どうしたの？
…まどか
大丈夫だよ ほむらちゃん
わたしね マミさんと 約束したの
絶対に みんなを守るって
だから…
それじゃ 駄目なの…
今からでも 遅くない あなただけでも 逃げてほしい
ワルプルギスの夜と 戦ってしまったら あなたは…
なにを しょぼくれてんのさ ほむら！

一番先輩のあんたが弱腰でどうすんのよ
…美樹さやか
そんなにあたしが頼りないってか
協力すればなんとかなるって！
まどかを守りたいって気持ちはあたしも同じ
まどかのお陰であたしは魔女に殺されずに済んだし
溜めこんでたこと吹っ切ることができたんだ
まあ…助けられた時のことはよく覚えてないんだけどさ…
…とにかくあんたにも一度助けられた借りがあるからね

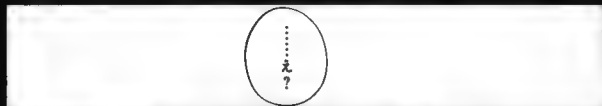
……わかった
行きましょう
まどか
あなたは必ず
私が守るから
まどかを守るのは
このあたしだ！
…二人とも
行くよ！

簡単に諦めたりはしない
何度繰り返すことになろうとも
私の成すべきことは一つだから

みんなへ。まずは謝らなくちゃいけないよね

力になれなくてごめんなさい。魔女を殺せない私を許してほしい。

束の間の日々だったけどあなた達と出会えてよかった

魔法少女なんて寂しくてつらいことばかりだと思っていたけど

あなた達のお陰で寂しくなかった

時々ぶつかることもあったけど…今はそれでよかったと思ってる

みんなで食べればね！

だってこんなにも

私を思ってくれる子がいるんだって気付くことができたから

もしも願いが叶うのなら

魔女のいない世界で
みんなに会えたら良かったな

『魔法少女まどか☆マギカ～The different story～』完

最終巻までお付き合い下さり誠にありがとうございます。

このまどか☆マギカスピンオフ「The different story」は
本編では3話で脱落してしまう巴マミが実際生き延びていたらどうなるか
というif展開のもとに執筆させて頂いたものです。

執筆するにあたり今回は本編コミカライズのような
視覚的にえぐいのは全て自粛！…を貫いたつもりなのですが
別の意味でえぐいことになってしまったのは誠に申し訳ございませんというか…
差し引きゼロの希望と絶望の世界の中で
新たに得るもの、失うものを感じて頂ければ良いのかなと…。
あくまでこのスピンオフは本編を引き立たせる一つの要素として
受け止めて貰えると嬉しいです。

このコミックスで沈んだ気持ちは
芳文社様発行のきららマギカや各種
アンソロジーで癒して頂ければと思います!

本書は原作に基づいて新たに描き下ろした
スピンオフ作品として刊行しております。

KIRARA MENU 720

魔法少女まどか☆マギカ(下)
~The different story~

2012年 11月27日 第1刷発行

原案/Magica Quartet
著者 漫画/ハノカゲ

発行者 伊東朋視
発行所 株式会社 芳文社
〒112-8580 東京都文京区後楽1-2-12
電話 : 03-3815-1521 (代表)
振替 : 00110-8-174056
装 丁 染谷洋平 (BALCOLONY.)
印刷所 凸版印刷株式会社
製本所 株式会社三森製本所

Printed in Japan 2012

ISBN978-4-8322-4220-3

魔法少女まどか☆マギカ
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
~The different story~
Not for sale
©Magica Quartet/Aniplex・Madoka Partners・MBS